

## 第3部

# 令和2年度地域との協働による高等学校 教育改革推進事業（グローバル型） 研究開発報告書

# 第1章 令和元年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業指定時の研究開発構想

## I 研究開発構想調書の概要

### 2019年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 構想調書の概要

指定期間	ふりがな	えひめけんりつまつやまひがしこうとうがっこう				②所在都道府県	愛媛県
2019～2021	①学校名	愛媛県立松山東高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	1学年9学級 1,063名	
普通科	360	80	80		520		
⑥研究開発構想名	東高がんばっていきましょい ーグローバルからグローバルへの挑戦ー						
⑦研究開発の概要	ア グローカル・リーダーを育成するための課題研究プログラム開発【グローバル明教】 イ 課題研究のための資質・能力育成カリキュラム開発【坊っちゃんタイム】 ウ 学校環境のグローバル化 エ SGHで培ったネットワークに松山市を加え、発展させたコンソーシアムの構築						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	(1) 目的・目標 輝かしい伝統を受け継ぎ、新たな創造を切り拓く、人間的魅力のあるグローバル・リーダーの育成 <育成する人材像> ・地域マネジメント力(課題発見力・企画立案力・協働実践力)を身に付け、郷土の課題の解決に貢献する志を持った人材 ・グローバルな視点を持ち、郷土の魅力を世界に発信し、持続可能な社会の発展に貢献する人材					
		(2) 現状の分析と研究開発の仮説 ○現状分析 松山市及びまつやま圏域は、本格的な人口減少社会の到来と急速な高齢化を迎え、 ・様々な世代の人がつながり支えあう、安全で安心なまちづくり ・誇れるアイデンティティ、良質な生活環境、豊かな自然という宝の継承 ・地域の魅力・活力があふれるまちづくり が課題となっており、地域課題の解決に向けてグローバルな視点の下、持続的発展を担うグローバル人材の育成が求められている。 ○仮説1 「まつやま圏域未来共創ビジョン」が掲げる目指すべき将来像やその実現に向けた具体的な取組、『第6次松山市総合計画』が示す、一人でも多くの人が笑顔で自分たちの住むまちに愛着や誇りを持ち、また、魅力にあふれ、市外の人からも「行ってみたい」「住みたい」と思われるまちづくりのための施策を学び、松山市を中心とした産官学連携の下、その施策を地域課題研究のテーマとすることで、生徒の主体的、対話的で、深い学びを実践することができる。 ○仮説2 5年間のSGH事業における、世界の持続可能な発展に貢献する深い教養、問題解決能力・コミュニケーション能力等の国際的素養を身に付けさせるプログラム開発に加え、地域課題解決を根幹としたグローバル・リーダーを育成する課題研究プログラムを開発する。また、課題研究のための資質・能力を育成するカリキュラム開発、学校環境のグローバル化、松山市を加え、発展させたコンソーシアムの構築に取り組むことにより、これまで愛媛県のリーダーを育成してきた本校として、地域課題の解決と地域の魅力発信に必要な地域マネジメント力を身に付けた、郷土に貢献するグローバル・リーダーを育成することができる。 ○仮説3 本校は前身の松山藩校・明教館設立から190年、愛媛県最初の中等教育機関である旧制松山中学校創設から140年の歴史を持つ伝統校である。本校のネットワークを利用した発信力を発揮することにより、地域と協働した教育改革を力強く推し進めることができる。					

⑧-2 具 体 的 内 容	<p>(1) 地域との協働による探究的な学びを実現する学習の実施計画</p> <p>ア 「総合的な探究の時間」での実施計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○1年次1学期 グローカル明教Ⅰ「グローバルとの出会い」           <ul style="list-style-type: none"> <li>・常盤同郷会・松山市との協働による、講義及び市内フィールドワーク</li> <li>・企業・大学との協働による、講義及び県内フィールドワーク</li> <li>・海外進出企業の巡検及び現地高校や大学との交流を行う海外フィールドワーク</li> </ul> </li> <li>○1年次2・3学期 グローカル明教Ⅱ「グローバル課題の発見」           <ul style="list-style-type: none"> <li>・松山市・大学との協働による、地域の魅力に関する講義・グループ学習</li> <li>・産官学連携による協働の下で行う、生徒の主体的な課題研究</li> </ul> </li> <li>○2年次通年 グローカル明教Ⅲ「グローバル課題への取組」           <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域マネジメント力の育成のため、産官学連携の下、「安全・安心のまちづくり」「魅力あるまちづくり」のテーマでの課題研究</li> <li>・課題研究の内容深化のための海外フィールドワーク</li> </ul> </li> <li>○3年次1・2学期 グローカル明教Ⅳ「グローバル課題の解決と発信」           <ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバル明教Ⅲから引き継ぐ探究活動及び研究論文の作成、成果の発信</li> </ul> </li> </ul> <p>イ コンソーシアムの体制</p> <p>松山市教育委員会生涯学習政策課、松山市総合政策部企画戦略課、愛媛大学社会共創学部、松山大学人文学部、いよぎん地域経済研究センター、えひめ地域づくり研究会議、常盤同郷会、愛媛県社会福祉事業団、愛媛県教育委員会高校教育課、愛媛県立松山東高等学校</p> <p>ウ 実施評価</p> <p>運営指導委員会評価、コンソーシアム評価、ルーブリック評価法を用いた教員・生徒による評価、保護者評価、自己評価</p> <p>エ 教科横断的な取組</p> <p>内容言語統合型学習 (E a s t C L I L) による全ての教科での言語活動の充実</p> <p>(2) カリキュラム・マネジメントの推進体制</p> <p>本事業のカリキュラムの実施は、コンソーシアムによる地域ビジョン・求める人材像の明確化により、地域課題研究委員会によってマネジメントする。地域課題研究委員会は、教頭・学年主任・教務課長・進路課長・図書研修課長・グローバル事業課長・課員及び地域協働学習支援員・海外交流アドバイザーから構成され、課題研究の計画、実施のための連絡・調整・支援、進行状況の確認・点検、評価を行うための計画作成を行う。課題研究チームは、地域課題研究委員会が作成した計画に基づき、地域協働学習実施支援員が中心となり外部との調整及び教職員(教科指導委員会・学年会・教科会)との連携を図りながら、カリキュラムを実施する。また、海外交流チームは、海外交流アドバイザーが中心となり、海外フィールドワークの計画・調整、海外留学の支援、留学生の受け入れ等を、グローバル事業課・英語科と連携しながら実施する。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○適用範囲：第1学年全生徒       <ul style="list-style-type: none"> <li>教科：情報 科目：「情報の科学」 単位数1単位 (標準単位数2単位)</li> </ul> </li> <li>○適用範囲：第2学年(年次進行で実施) 普通科 グローカルコース       <ul style="list-style-type: none"> <li>教科：保健体育 科目：「保健」 単位数1単位 (標準単位数2単位)</li> </ul> </li> </ul> <p>以上の教育課程の特例を適用することにより、「総合的な探究の時間」(グローバル明教)の単位数をそれぞれの学年2単位で実施する。</p>
⑨その他 特記事項	特記事項なし

## II 研究開発 取組内容の概要

### 1 取組内容及び管理・運営方法

- (1) グローカル・リーダーを育成するための持続可能な課題研究プログラム開発【グローバル明教】
- ア グローカル明教Ⅰ(総合的な探究の時間)【グローバルとの出会い】

- ・対 象 第1学年全生徒（第1学期）
- ①（研究領域）アイデンティティとグローバル
  - （テーマ）明治の松山・松山中学から見たグローバル
  - ＜市内フィールドワーク＞時期：4月下旬 場所：坂の上の雲ミュージアム・秋山兄弟生誕地等の松山市内の史跡・本校同窓会資料館・明教館
- ②（研究領域）アジアと愛媛の企業
  - （テーマ）愛媛の企業のグローバル化とSDGsへの取組
  - ＜県内フィールドワーク＞時期：6月中旬 方法：40名～80名で各事業所を訪問
  - ＜報告会＞時期：7月上旬 方法：各事業所訪問代表者によるプレゼンテーション及び質疑応答
  - ＜海外フィールドワーク＞時期：8月上旬 訪問先：台湾、フィリピン、中国
  - ＜報告会＞時期：8月下旬 場所：子規記念博物館
  - 方法：各訪問代表者によるプレゼンテーション
- イ グローカル明教Ⅱ（総合的な探究の時間）【グローカル課題の発見】
  - ・対 象 第1学年全生徒（2学期・3学期）
  - （研究領域）地域及び世界の持続的な発展のために
  - （テーマ）松山市総合計画及びまつやま圏域未来共創ビジョンから学ぶ地域の魅力と課題
  - ＜講義＞時期：9月上旬 講師：愛媛大学教授
  - 演題：世界の持続的な発展のための開発目標（SDGs）とは
  - ＜講義＞時期：9月中旬 講師：松山市総合政策部担当者
  - 演題：松山市総合計画及びまつやま圏域未来共創ビジョンとは
  - ＜グループ学習＞時期：9月下旬
  - 方法：松山市の「笑顔のまつやままちかど講座」の活用によるグループ学習
  - ＜課題研究＞時期：10月～3月 実施方法：グループ別探究活動
  - 研究内容：松山市及びまつやま圏域の魅力と課題について
  - ＜成果発表会＞時期：3月 方法：ポスターセッション
- ウ グローカル明教Ⅲ（総合的な探究の時間）【グローカル課題への取組】
  - ・対 象 第2学年グローカルコース生徒（80名）（通年）
  - ※生徒は、希望進路に関わらず、グローカルコースを選択することができる。
  - （研究領域）地域マネジメント力の育成
  - （テーマ）「安心・安全のまちづくり」「魅力あるまちづくり」
  - より高水準な専門的課題研究を行うためのグローカルコースの設定
  - 高大連携・地域連携による課題研究の深化
  - ＜海外フィールドワーク＞
  - 時期：8月上旬 訪問先：フィリピン
  - 11月上旬 訪問先：ドイツ
  - ＜成果発表会＞○中間発表会 時期：12月 方法：ポスターセッション
  - 研究成果発表会 時期：3月 方法：プレゼンテーション発表及びシンポジウム
- エ グローカル明教Ⅳ（総合的な探究の時間）【グローカル課題の解決と発信】
  - ・対 象 第3学年グローカルコース生徒（80名）（第1・2学期）
  - グローカル明教Ⅲから引き継ぐ協働的探究活動及び研究論文の作成、成果の発信
  - ＜成果発表会＞時期：9月（文化祭） 方法：プレゼンテーション発表及びシンポジウム
  - ＜情報の発信＞
  - 「日本地域創生学会」等地方創生に取り組んでいる学会での発表を検討
  - 内閣府地方創生推進室主催「地方創生政策アイデアコンテスト」、愛媛県主催「愛媛グローカル・フロンティア（EGF）アワード」、松山市まちづくり提案制度（次世代育成支援事業）、愛媛大学社会共創学部主催「社会共創コンテスト」等の地方創生コンテストへの応募

※ 中間発表会や成果報告会等では、課題研究に関するポスターセッションやプレゼンテーション発表、シンポジウムを実施する。議論や発表方法等の検討を通じて、課題研究の深化を図ることが期待できることから、これらの会には、グローカルコースに属さない生徒にも参加させ、成果発表の評価や質疑応答に取り組みさせる。また、活動報告等をまとめた成果物（News Letter等）を全校生徒に配布するなどにより、グローカルコースでの成果を全校で共有することとする。

- (2) 課題研究のための資質・能力育成カリキュラム開発【坊っちゃんタイム】  
 グローカル・リーダーの育成には、グローバルな視点で地域課題の解決に貢献する志はもとより、日本語を母国語としない人々と議論したり、地域課題に関する研究成果について海外に発信したりすることのできる高い英語力を育む必要があるため、次の取組を実践する。
- ア 英語の授業において5年間のSGH事業の成果を生かし、高いレベルのディスカッション力、ディベート力等を身に付けさせる実践的な「英語表現Ⅰ」「英語表現Ⅱ」の授業
- イ 内容言語統合型学習（E a s t C L I L）による全教科での言語活動の充実
- 英語以外の教科を英語で実施
  - 語学力向上と異文化理解の深化
  - 思考力・判断力・表現力・分析力の育成
- (3) 学校環境のグローバル化
- ア SGH部の活用
- イ 海外修学旅行による体験的語学研修促進
- ウ 海外留学及びアジア高校生架け橋プロジェクトを含む海外の留学生受け入れ促進
- エ 県内留学生、海外高校生との交流
- オ 俳句の研究・発信、俳句による海外交流及び中高連携
- カ ICT活用による情報活用能力、情報発信能力の育成
- キ 松山市の姉妹都市（フライブルク市（ドイツ）等）の高校生との交流促進
- (4) SGHで培ったネットワークに松山市を加え、発展させたコンソーシアムの構築
- ア 松山市を中心にした新たな教育資源を開拓
- イ 新たな産官学連携のためのコンソーシアム構築
- ウ 松山市内の高校生と連携し、地域課題を議論する「松山市高校生地方創生会議」の新設
- エ 「中四国SGH高校生会議」を発展させた「中四国高校生地方創生会議」の新設
- オ 他校で実施可能な地域協働による教育プログラムの開発

## 2 管理・運営方法

### (1) 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名
松山市教育委員会生涯学習政策課
松山市総合政策部企画戦略課
愛媛大学社会共創学部
松山大学人文学部
いよぎん地域経済研究センター
えひめ地域づくり研究会議
常盤同郷会
愛媛県社会福祉事業団
愛媛県教育委員会高校教育課
愛媛県立松山東高等学校

### (2) 将来の地域ビジョン・求める人材像等の共有方法

計画立案段階及び毎年4月に、コンソーシアム代表者会議を開催し、松山市及びまつやま圏域が掲げる将来の地域ビジョン・求める人材像等の共有を図る。その後、9月、3月に開催するコンソーシアム会議において、本事業が地域ビジョン・求める人材像に合致しているかを検討し、改善を図る。

### (3) コンソーシアムにおける研究開発体制

地元自治体である松山市との連携の下、5年間のSGHで培ったネットワークを活用し、産官学でコンソーシアムを構築する。

海外進出企業及び地方創生に取り込む企業の紹介・交渉を調査研究組織である「いよぎん地域経済研究センター」に依頼する。また、より広範囲のテーマの課題研究に向けた協働的な地域課題研究のため、えひめ地域づくり研究会議、常盤同郷会、愛媛県社会福祉事業団等に協力を依頼し、研究開発体制を構築する。

管理機関として指導助言及び支援を愛媛県教育委員会高校教育課に、生徒が主体的に地域課題研究を行うために必要な地域が抱える課題及び魅力あるまちづくりに関する視点の育成の支援を松山市に依頼する。「第6次松山市総合計画」「まつやま圏域未来共創ビジョン」等の担当者として協働しその体制を構築する。

SGH事業で培った、高大連携による広範囲・高度な課題研究の体制を維持し、持続的な高大連携につなげる研究体制を愛媛大学と構築する。また、資質・能力向上のために愛媛大学の高大接続科目及

び大学主催の特別公開講座の受講も推進する。さらに、地域課題解決の観点から、地域とのつながりの深い松山大学との新たな連携も構築する。

#### (4) 海外交流アドバイザー（グローバル型）の指定及び配置計画

本校に勤務している海外交流アドバイザーを継続指定（月3～4回×4時間×12月配置）

氏名：村上美智子（海外経験豊富、本校SGH事業における海外交流アドバイザー）

職務・経歴：地域課題研究委員会の委員として、グローバル課題への取組の指導・助言及び外部機関との連絡・調整を行う。同氏は、SGH事業においても海外交流アドバイザーをしており、海外フィールドワークに関する様々な折衝や、県外のSGH校との連携、本校の英語版HP等に関わる重要な業務を遂行した。本事業でも、その経験を生かし、海外交流アドバイザーを依頼し、今後は、各教科・科目や総合的な探究の時間に相当する「グローバル明教」やSGH部による放課後の海外の機関との連携交渉などを担当する。

#### (5) 地域協働学習実施支援員の指定及び配置計画

管理機関により、地域協働学習実施支援員を指定（月7～8回×4時間×12月配置）

氏名：嶋村美和（元京都大学東南アジア研究所研究員、本校SGH事業における特別非常勤講師）

職務・経歴：地域課題研究委員会の委員として、産官学の外部関連機関との連絡・調整を行う。同氏は、SGH事業において、特別非常勤講師として、専門分野のアジア・アフリカ地域研究をもとにして、「世界から日本を見る」「愛媛の国際化」「フィールドワーク入門」「多様性を考える」などのテーマで、生徒に課題研究の指導をした。同氏が有する知識及び技能は、生徒の学習への興味・関心の高まり、志の醸成に多大な貢献をした。本事業では、地域協働学習実施支援員として、各教科・科目や総合的な探究の時間に相当する「グローバル明教」実施時における外部との調節、探究的な学習活動のファシリテーションに係る業務を担当する。

#### (6) 運営指導委員会の体制

- |            |                       |     |       |
|------------|-----------------------|-----|-------|
| ・学識経験者（2名） | 四国地区国立大学連合アドミッションセンター | 教授  | 井上 敏憲 |
|            | 松山東雲女子大学              | 教授  | 佐伯三麻子 |
| ・文化（1名）    | 坊っちゃん劇場               | 支配人 | 平野 淳  |
| ・国際（1名）    | (有)クラパムコモンカンパニー       | 代表  | 菅 紀子  |
| ・経済（1名）    | 三浦教育振興財団              | 監事  | 寺村 尚起 |
| ・学校教育（1名）  | 松山南高等学校(S SH指定校)      | 校長  | 染田 祥孝 |
| ・松山市（1名）   | 総合政策部地方創生戦略推進官        |     | 吉田 健二 |

#### (7) 研究成果報告・事業成果の検証に向けた計画

##### ア 生徒の変容の検証

アンケート調査、観察、レポート、プレゼンテーション作品、成果発表会、討論会、学力調査

##### イ 教員の変容の検証

アンケート調査、観察

##### ウ 保護者の変容の検証

アンケート調査、観察

##### エ 学校の変容の検証

自己点検・自己評価、学校評価委員会による評価

##### オ 松山市、大学、企業、国際機関との連携に対する検証

アンケート調査

##### カ 運営指導委員会による評価

#### (8) 管理機関又はコンソーシアムによる主体的な取組・支援

管理機関：本事業実施上必要な指導・助言、及び予算面、人事配置等本事業の円滑な運営実施における支援

コンソーシアム：事業計画の立案及び実施における協力・助言

地域課題研究のための外部関係機関の紹介・交渉

- ・5年間のSGHで構築したネットワークに、本事業から地元自治体として松山市が参画・地域課題研究のため松山市が中心となったコンソーシアムを構築
- ・松山市総合政策部企画戦略課が窓口となり各課との連絡調整を行い、広範囲の地域課題研究を円滑に行うことができるよう協働して支援

#### (9) 事業終了後の継続的な取組の実施に向けた計画

本事業は、地域課題の解決に貢献する志を持ち、地域を支える人材の育成に貢献する事業であり、事業終了後も継続して探究的な学びである地域課題研究に取り組む。

- ・課題研究の課題設定に必要な情報の提供について、松山市主催の「笑顔のまつやままちかど講座」を活用する。
- ・課題研究に係る企業等訪問について、本校の地理的な利便性を生かし、引き続き実施する。
- ・SGH事業で培った高大連携事業の一環として作成したルーブリック評価票を活用し、探究活動を

活性化させることにより、生徒の主体的、対話的で深い学びを促進する。

- 課題研究のための必要な資質・能力育成カリキュラム開発について、5年間のSGH事業及び3年間の本事業の取組を発展させていく。
- 新設する「松山市高校生地方創生会議」を継続して実施する。
- 平成27年度にSGH事業の海外フィールドワークを支援することを目的に「松山東高等学校グローバル人材育成振興会」が発足。平成28年度からは、海外フィールドワークを含む、グローバルリーダーを育成する様々な活動を支援することとなった。多くの賛同者からの寄付により、様々な事業に支援を受けた。140年の歴史を有する本校は、産官学に多くの人材を輩出しており、本事業の取組を地域に今まで以上に発信し、より多くの支援を目指す。

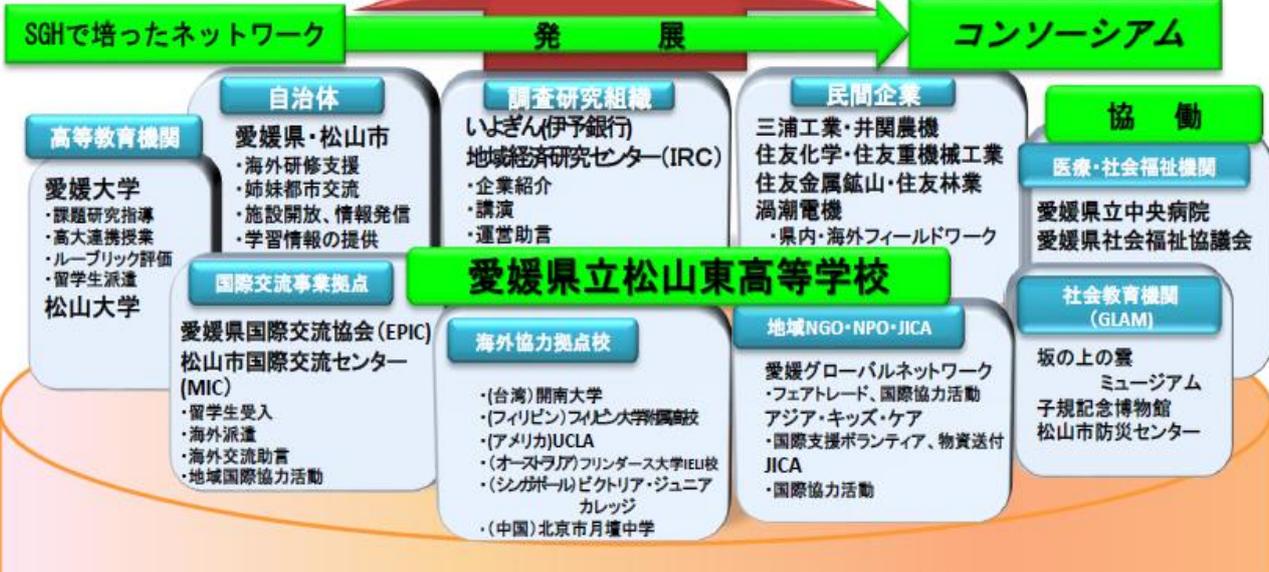
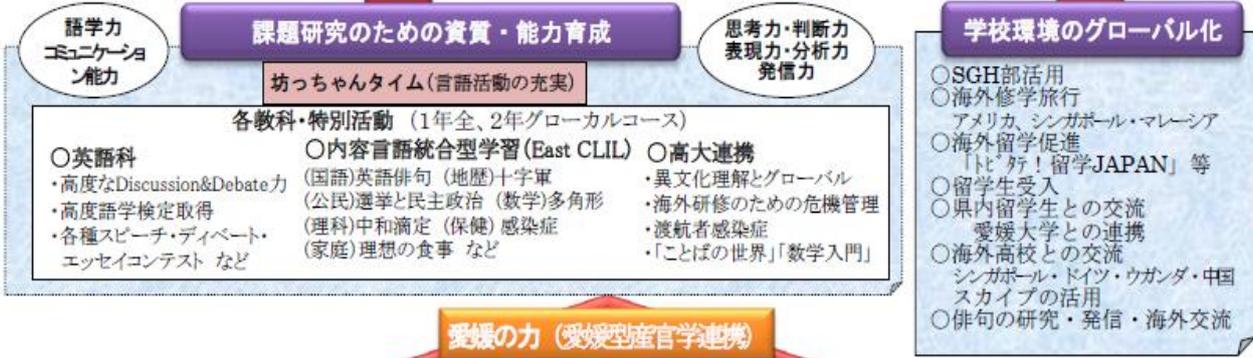
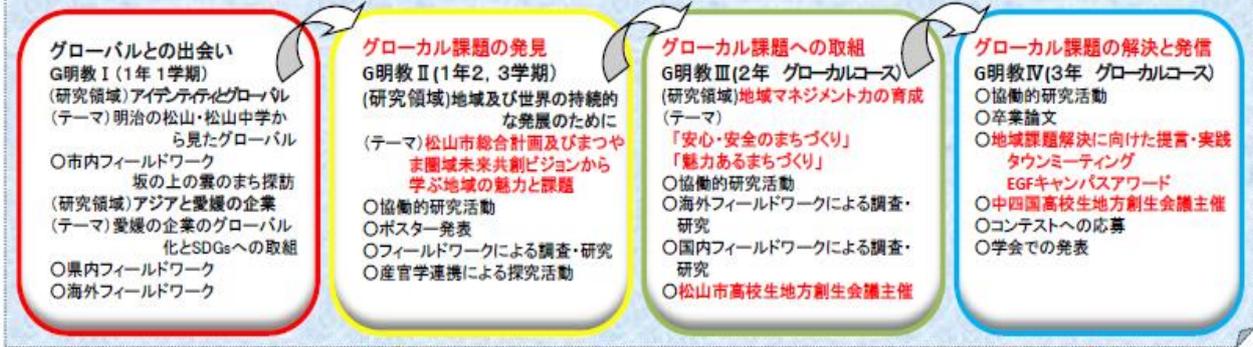
### Ⅲ 研究開発 ビジュアル資料

(研究開発構想名) **東高がんばっていきましょい**  
**— グローバルからグローバルへの挑戦 —**

輝かしい伝統を受け継ぎ、新たな創造を切り拓く、  
 人間的魅力のあるグローバル・リーダーの育成

- 育成する人材像**
- **地域マネジメント力(課題発見力・企画立案力・協働実践力)**を身に付け、郷土の課題の解決に貢献する志をもった人材の育成
  - **グローバルな視点を持ち、郷土の魅力を世界に発信し、持続可能な社会の発展に貢献する人材の育成**

**グローバル・リーダーを育成するための持続可能な課題研究**



グローバル・リーダーを育成するための持続可能な課題研究プログラム開発

# グローバル明教（G明教）

## グローバルとの出会い

G明教 I 1年生1学期 360人 2単位

### ＜アイデンティティとグローバル＞

- ・本校の歴史(講演)
- ・秋山兄弟が接した世界(講演)
- ・松山市内フィールドワーク(坂の上の雲ミュージアム・秋山兄弟生誕地他)
- ・アジアと愛媛の企業＜
- ・愛媛の企業のグローバル化とSDGsへの取組について(講演)
- ・県内企業訪問(三浦工業・井関機械・鴻瀬電機・住友化学・住友重機械・住友林業・住友金属鉱山)
- ◆優秀レポート発表
- ◆県内企業訪問報告会
- ★海外フィールドワーク
  - ・台湾・フィリピンにおける企業拠点訪問及び現地大学・高校との交流、ディスカッション
- ◆海外フィールドワーク報告会
  - ・海外フィールドワーク報告、短期留学参加者発表
  - (松山市立子規記念博物館)

## グローバル課題の発見

G明教 II 1年生2,3学期 360人 2単位

### ＜地域及び世界の持続可能な発展のために＞

- ・松山市総合計画及びまつまやま圏域未来共創ビジョンから学ぶ地域の魅力と課題
- ・SDGsについて(講演)
- ・松山市の課題と魅力(講演)
- ・課題研究事前説明
- ・「安心・安全のまちづくり」の魅力あるまちづくりを目標に、高大連携・地域連携による協働的研究活動
- ・国内外学会へのポスター発表
- ★県内・市内フィールドワーク
  - ・産官学による連携
  - ・先進地視察
  - ・調査
- ◆研究成果発表会
  - ・約100枚のポスター発表
  - ・ポスターセッション実施

## グローバル課題への取組

G明教 III 2年生 通年  
グローバルコース80人 2単位

### ＜地域マネジメント力の育成＞

- ・高大連携・地域連携による、より高水準な専門的課題研究を行うためのグローバルコースの設置
- ・「安心・安全のまちづくり」の魅力あるまちづくりを目標に、課題研究のための協働的研究活動
- ・国内外学会へのポスター発表
- ・地域での政策提言や実践活動
- ★海外フィールドワーク
  - ・ロサンゼルス修学旅行
  - ・シンガポール・マレーシア修学旅行
  - ・ウガンダでの国際協力活動
  - ・ドイツでの探検学習
- ★国内フィールドワーク
  - ・先進地視察
- ◆研究中間発表会
  - ・ポスター発表(個人)
- ◆研究成果発表会
  - ・シンポジウム開催
  - (I 英語、II 政治・外交、III 地域・経済、IV 環境・開発の4分野)
- 「松山市内高校生地方創生会議」

- ※次世代リーダー育成塾
- ※留学生受入
- ※県内留学生との交流
- ※俳句による海外高校生との交流

- ※語学研修
  - ・オーストラリア語学研修
  - ※トビタテ!留学JAPAN他、各種留学
  - ※えひめ高校生ハワイ派遣事業

## グローバル課題の解決と発信

G明教 IV 3年生 1,2学期  
グローバルコース80人 1単位

### ＜協働的研究活動および研究論文の作成＞

- ・G明教 IIIから引き続き大学・地域等と連携した協働的研究活動
- ・研究成果をまとめた論文の作成(個人・グループ)
- ◆研究論文発表会・研究成果の発信
  - ・文化祭での研究論文発表会
  - ・タウンミーティング、EFGアワードでの政策提言
  - ・国内外学会への研究論文発表
  - ・学校ホームページ上での研究成果の公表
  - ・海外大学進学のためのエッセイ等の作成
- 「中四国高校生地方創生会議」

- ※語学研修
  - ・オーストラリア語学研修
  - ※トビタテ!留学JAPAN他、各種留学
  - ※えひめ高校生ハワイ派遣事業



### 第3章 令和2年度の実施詳細

#### I 1年生の取組（本年度対象：360人）

以下のような内容で実施。

	内容	カリキュラム名	回数 etc.	日付・期間	人数
1	各種講演及び ワークショップ	G明教Ⅰ G明教Ⅱ	10回	5/28～11/19	全員
2	海外FW代替交流	G明教Ⅰ	2回		選抜
3	課題研究	G明教Ⅱ	19講座、15回	9/19～3/5	全員
4	E a s t C L I L	坊ちゃんタイム	6授業	通年	全員

#### 1 各種講演及びワークショップ【G明教Ⅰ・G明教Ⅱ】

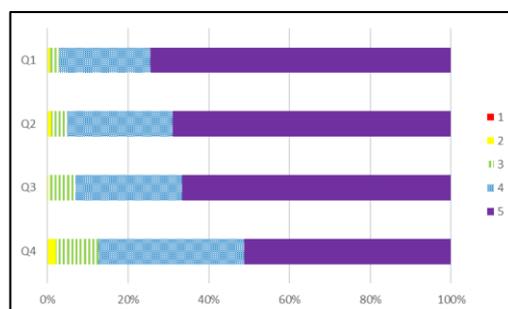
本年度の1年生が聴講した講演及びワークショップは10講座である。

実施日	講演内容	講師
5月28日 (木)	これからの、よのなかの話をしよう	NPO 法人 NEXT CONNEXION 代表 越智 大貴 氏
6月4日 (木)	地域社会の持続可能な発展に向けてー今、なぜグローバル人材が求められるのかー	愛媛大学社会共創学部 西村 勝志 教授
6月11日 (木)	レベゼン故郷！井の中の蛙 大海をゆく	一般社団法人 いよのミライカイギ 代表理事 富田 敏 氏
6月18日 (木)	世界共通のゴール「SDGs」の達成に向かってー足元から世界とつながる！ー	愛媛大学国際連携機構 小林 修 准教授
6月25日 (木)	いい、加減。まつやま	松山市シティプロモーション推進課 西原 進 氏、宇都宮 あゆ美 氏、大森 俊介 氏
7月2日 (木)	ワークショップ 笑顔まつやま まちかど講座	松山市役所 各担当者
9月3日 (木)	松山から世界へ。世界から松山へ。田丸の場合。	ショートショート作家 田丸 雅智 氏
10月15日 (木)	企業の見方&地域製品のマーケティング	学習院大学経済学部経営学科 上田 隆穂 教授
10月29日 (木)	企業グローバル化の取組と課題 ☆県内企業フィールワーク代替講演	三浦工業株式会社 高津 敦士 氏 株式会社アテックス 西本 大介 氏
11月19日 (木) ★	街場の経済学 ー会社を知って、社会を学ぶー	元日本経済新聞社 特別編集委員 末村 篤 氏
11月19日 (木) ★	5Gなど最先端の情報通信技術(ICT)と情報通信社会の展望ー世界と連携して、どのような新しい社会を構築するかー	損害保険ジャパン株式会社 顧問 阪本 泰男 氏

★は選択

#### (1) これからの、よのなかの話をしよう（講演者：NPO 法人 NEXT CONNEXION 越智 大貴 代表）

- ①主旨 主権者として社会の中で自立し、他者と連携・協働しながら、社会を生き抜く力や地域の課題解決を社会の構成員の一人として主体的に担うことができる力を身に付けさせる。
- ②概要 社会や政治には福利の最大化を目指したり、個人の自由を尊重したりする視点があり、様々な意見をぶつけ合いながら学び、より良い方法を選ぶ力を身に付けることが大切である。
- ③生徒評点（低評価1←→5高評価）
  - Q1. 主権者となるうえで大切なことを理解できたか。
  - Q2. 政治や社会に対する興味・関心が高まったか。
  - Q3. 「挑戦」することの意義を理解することができたか。
  - Q4. 「自己肯定感」を高める術を学ぶことができたか。
- ④生徒感想
  - ・様々な情報が飛び交う中で、疑問に感じたことは探究心を持って考え、意見を持つことが大事だと思いました。



- 社会を様々な視点から見て、批判的・創造的思考を身に付けることが大切だと思いました。
- 政治は本当に身近なものだから、選挙権があるなら、それに参加することが当たり前だと思った。時代は常に変化していくので、いろいろなことに積極的に興味を持って、いろいろな意見を交換し合って、自分の新しい考えや発見を持つことが大切だと分かった。
- まずは自分の意見を持つことが必要だと思いました。政治や選挙に限らず、様々な分野に興味を持ち、自分の意見を持っていきたい。そのために、広い目で社会を見て、いろいろなことを知っていきたい。
- 政治は意見を出すことで始まるものであり、その意見は、言ったり聞いたりすることが大切であると聞いて、自分で何か必ず一つ以上意見を持ち、そのことについてできるだけ詳しく説明し、どう考えているか理解してもらおう努力が必要だと思った。
- 他の人の意見を聞き、物事を柔軟に考え、より良い方法とは何かを深く考えたい。
- これからの社会は、これまでの常識が通用しない時代であり、新たな方法を考えてみたい。
- 自分も社会の一員としてこの世界に貢献していく自覚を持ち、政治などいろいろなことに関心を持ち、少しずつでも実践していきたい。
- 政治は意外と若者も参加しやすく、手の届きやすいことが分かった。日本のこと、世界のことをもっと若者が考えていくべきであり、若者には世界を変えていく力があると感じた。
- 謙虚さを忘れずに、自分は「なぜ学ぶのか？」を問い続けることが大切であると知ったので、これから実践していきたい。意見を持ってしっかりと行動に移していくことが大切だと思いました。
- まず一回選挙に行ってみて政治に参加できるようにしたい。また、友達と政治について話し合い、自分ができることがないか探していきたい。
- あと2年で選挙権を持つことになると思うので、それまでにニュースや政治に関わることを見たり聞いたりして何もわからない状態で選挙に行くようなことがないようにしたい。
- シティズンシップを育むために、自分がなぜ学ぶのかということ問い続けていきたいと思った。
- 人によって考えは違うから意見がぶつかるのは当然のことで、それを恐れず議論していこうと思った。
- 自分が社会の一員であるという感覚を身に付ける必要があるという言葉が印象に残った。自分が社会の一員であるという意識を今から高めて、自分のためだけでなく、他の人・社会のことも考えて行動できる人になりたい。
- 人と人、自分と相手では持っている価値観が違うので、お互いに認め合っていくことが大切だ。常識を疑い、常に正しいかどうかを考えて行動していかなければならない。グローバル社会の中で活躍するには、違う意見を持った人々を攻撃したり非難したりするのではなく、違った視点から考えているのかもしれないということを念頭に置き、考えてみなければならない。



## (2) 地域社会の持続可能な発展に向けて—今、なぜグローバル人材が求められるのか—

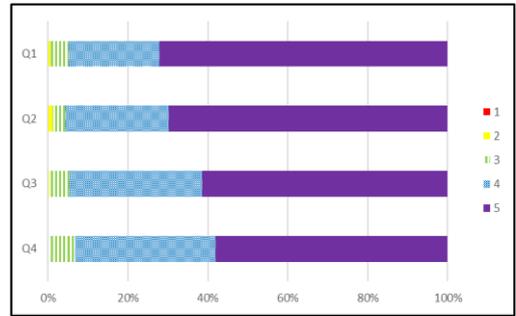
(講演者：愛媛大学社会共創学部 西村 勝志 教授)

- ①主旨 地域と世界の持続的な発展のために必要なグローバルな視点とは何かについて理解を深めるとともに、地域や世界の課題の解決に向けて取り組む意義について学ぶ。
- ②内容 持続可能な社会の実現を目指して研究及び実践を行っている愛媛大学社会共創学部の教授から、「グローバルとは」「地域の現状と求められる人材とは」「地域は、どこへ向かうべきか」について詳しく説明していただいた。地域が活性化するためには、他の地域や国とつながることが必要であり、グローバル人材が重要な役割を果たすこと、地元松山を大好きになるとともに、愛媛県のみならず他の地域や他の国のこと、さらには世界に興味・関心を持つことが大切であると教えていただいた。
- ③生徒評点 (低評価 1 ←→ 5 高評価)
  - Q 1. グローバルについて理解は深まったか。

- Q 2. グローカル人材について理解は深まったか。
- Q 3. 愛媛県の現状について理解は深まったか。
- Q 4. 愛媛県の諸課題について理解は深まったか。

#### ④生徒感想

- ・地域と世界をつなげて考え、地域の人々と協働できるグローバルな人材が必要であることが分かりました。
- ・問題解決のために、様々な課題を設定し、効率的に克服できるようになる課題解決思考力と、問題解決に向けた仲間との協働力を有するサーバント・リーダーシップを身に付けたいです。
- ・今まであまり地域について考えたことがなかったので、この講演で多くのことを学びました。新型コロナウイルスで混乱している今だからこそ、協力・連携・協働をしていきたい。
- ・地域社会の持続可能な発展に貢献できるよう、まずは社会の現状を自分から進んで興味を持ち、把握すること、そして課題設定することに挑戦し、地域社会に貢献できるグローバルな人材になれるように頑張りたい。
- ・世界というと大き過ぎてよく分からないが、地域という狭い範囲に絞ることで課題が身近に感じられ、地域のために行動しようとする意欲が湧いてきた。
- ・少子高齢化が進む中で、私たちはグローバル意識を持って、地域のリーダーになっていかないといけないと感じた。
- ・地域は単独では発展できないということが分かった。他地域とのつながりや国とのつながりが不可欠だと思った。
- ・これからは今までと変わって、グローバルな能力が求められることが分かった。国や社会に貢献するためには、まず地域のことから考え、地域のためになる行動をとることが大切だと思った。そのたびに、日ごろから地域の人とのコミュニケーションを大切にしたり、幅広い専門知識を持っておいたりすることで連携・協働をすべきだと思う。持続可能な社会づくりに向けて、まずは自分のできることを見付け、行動することで、その態度が地域や社会を動かす力につながるのではないかと思った。
- ・私の育った東予でもイノベーション不足などが問題であると知った。今できることは少ないかもしれないが、論理的思考や創造的思考、コミュニケーション能力などを身に付けておけば、将来必ず、地域の役に立つ人材になれると思う。
- ・多面的な視野を持って地域に目を向けていく、そういう意識が大切だとわかった。愛媛でも東予・中予・南予とそれぞれ違う課題があると思うので、調べてみたい。日本や地域の実情を知ることから始めていきたい。
- ・世界には現在、数えきれないほど様々な問題がある。身近にもとてもたくさん問題がある。それを解決するため、課題をよく考えて設定し、チームで行動しなければならないと感じた。県や市の問題の解決は、今は難しいので、まずは個人や家族、地区の問題を解決することから始めようと思う。学校では問題解決をする場がすごく頻繁にあるので、今のうちに問題解決の練習をしっかりとっておこうと思った。
- ・自分の地域に対して、あまり関心が持てていなかったことに今日の講演で気付かされた。自分の地域は疲弊した地域で、経済活動の継続が困難になっている。今日の人口減少が、さらに若者の都会への人口流出を加速させている。多面的にこの課題を見つめなおし、地元の間人としての誇りやアイデンティティを確立することで地域を立て直したいと思う。



#### (3) レペゼン故郷！井の中の蛙 大海をゆく

(講演者：一般社団法人 いよのミライカイギ 代表理事 富田 敏 氏)

- ①主旨 人口減少時代において、地域の活性化は急務とされており、各地域で様々な取組が行われている。地域への移住促進や町おこしを実践されている方より、その取組と課題を聞き、地方創生において主体的に行動するために必要なことを考えさせる。
- ②内容 伊予市双海町で取り組んできた地域おこしの取組やこれからの取組について、分かりやすく説明していただいた。田舎であることによる「できない」ことを嘆くのではなく、田舎であることによる「できる」こと、可能性を追い求めることが大切であることや、継続して事業を行うためには「予

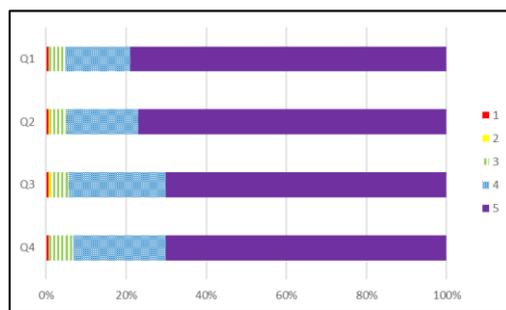
算ゼロから考える 人手をかけない 無理をしない」ことや、情報の発信や地域間で連携を図ることの重要性などを教えていただきました。

### ③生徒評点 (低評価1 ←→ 5高評価)

- Q1. 地域活性化について理解は深まったか。
- Q2. 地域活性化について興味・関心が高まったか。
- Q3. 地域おこし協力隊について理解は深まったか。
- Q4. 地域の魅力について考えることができたか。

### ④生徒感想

- ・将来は都会に住んでみたいと考えていましたが、田舎にもたくさん良いところがあることに気がきました。田舎の良さを見つけるのも私たちの使命なのではないかと思いました。田舎には無限の可能性があり、見付けられていない新たな多くの魅力を私たちが見付け、地域おこしに協力していきたい。
- ・故郷を大切に、活性化させていくために、今自分がやりたいと思ったことをまずは実践していきたい。大学生でも地域活性化に貢献できることを知り、まずは自分も地域のことをよく知り、積極的に動いていきたいと思った。
- ・マイナスをプラスに変えるために、可能性をポジティブに考えることが必要であり、それを実践されている講師の先生方は素晴らしいと思った。
- ・今まで都会にすごく憧れている部分があっ、あまり田舎に良いイメージがありませんでした。しかし、今回の講演で、松山の可能性について知りたかったです。講師の先生方のアクティブな姿勢に積極性のない私も、行動しよう、やってみようと思う気持ちを大切にしていきたいと思いました。
- ・人口減少や過疎の問題への取組や活動を聞いて、自分も自分の故郷を盛り上げる活動に積極的に参加してみようと思いました。私も、田舎の自然や景色が美しいところや、人とのつながりが感じられるところが好きなので、その良さがたくさんの人に伝わってほしいと思いました。
- ・「田舎嘆きの十か条」を見たときすごく共感しました。住んでいて嫌な部分ばかりが目についていたけど、講演を聞いて「田舎の可能性」をととても感じました。早く都会に出たいとずっと思っていたけれど、この故郷で、故郷をより良くするために何かできることがあるのではないかと感じました。
- ・自分たちの故郷だから、自分たちの手で作りあげてより活性化していく。そういう思いを持ってこれから生活したり、自分のできることにについて調べたりしようと思います。
- ・大学生である上田さんの自分のしたいことをしっかりと考え、早くから行動されている姿がとても印象的でした。私はしたいことが漠然としか決まっておらず、人のため、地域のための考えをしっかりと持ち、よく考えて行動に移せるようになりたいと思った。
- ・大好きな地元愛媛を守り、もっと豊かにするためにイベントに積極的に参加したり、町おこしのボランティアに取り組んだりしていきたい。
- ・TTPという考え方はとても大切だと思いました。何か新しいことをしようとするのが難しく、諦めてしまうことが多いが、他の地域でしていることを真似ることは、その地域では必ず新たな取り組みとなるので有効だと思いました。そして、その真似たことをまた周囲に広げていくことで、様々な地域の活性化につながっていくことができることが分かった。
- ・自分が住んでいる愛媛県にも、過疎化による限界を迎えている地域があるということを実感した。特に「田舎の嘆き十か条」や、双海町では、高齢者の割合が約半数を占めていたり、子どもの割合が約 6.8%であったりすることなど、具体的な数字を知って驚いた。
- ・今までは東京や大阪などの都会に行きたいなと思っていましたが、今日の講演を聞いて、地元に残るのも良いかもしれないと考えた。愛媛の田舎では人口も少なく、来客数も減ってきているので、そういう地域を活性化させたいと思った。都会の最先端の技術もすごいと思うが、田舎の美しい自然も素晴らしいと思うので、その点を強調して地域を活性化できたらよいと思った。
- ・町おこし、村おこし、地域づくりを行っている人が、地元の人ばかりでなく、横浜など都会から来ている人がいることを知って驚いた。
- ・地域のためになるような活動を実際に行うのは大変だが、とても誇れる仕事の一つだと思うと、自分たち



の力で地域をより良くしていけることに、とてもやりがいを感じる仕事だと思います。当たり前のように地域で生活していますが、その陰には様々な人々の努力があるということをしり、何かできることがあれば積極的にチャレンジしていきたいと思った。

- ・講演の中で、「いくら本で調べても頭でいろいろなことを考えても机上の空論にしかならず結局何をしたらいいのかわからなかった」ということを聞き、このことは町おこしだけでなく、様々な将来の夢の実現についても共通して言えることだと思った。自分の将来についてもパソコンや本で調べるだけでなく、自分から話を聞きに行く、職業体験を試みるなど様々な活動で自分の将来の可能性を広げていきたい。
- ・私の地元の砥部町も日に日にさびれていっている状況を感じている。この状況を変えるには、町民だけでなくほかの人も巻き込んで地域を活性化しなければならないと改めて思った。失敗が怖くて初めの一步が踏み出せない、このような状況においては「どんどん失敗していい」という言葉を胸に、失敗してもそれを生かして次につなげられるようにしたいと思った。

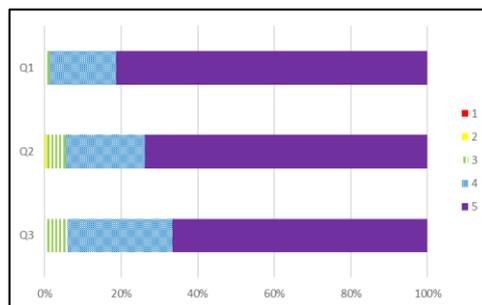
#### (4) 世界共通のゴール「SDG s」の達成に向かって～足元から世界とつながる！～

(講演者：愛媛大学国際連携機構 小林 修 准教授)

- ①主旨 グローカルリーダーを育成するために必要なグローバルな視点を養うために、世界の持続的な発展のための開発目標 (SDG s) について学ぶ。
- ②内容 持続可能な開発目標 (「SDG s」) について説明をしていただいた後に現在、達成度の高い国や低い国について考察を行いました。また、2030年までに日本が達成することが難しい以下の四つの分野についてもお話していただきました。

#### ③生徒評点 (低評価1 ←→ 5 高評価)

- Q1. 持続可能な開発目標について理解は深まったか。
- Q2. 地域から世界に繋がることについて理解は深まったか
- Q3. 今後求められる人材について理解は深まったか。



#### ④生徒感想

- ・自分が思っているより SDG s が身近なものであるということに気がきました。SDG s をすべてクリアできている国はどこにもなく、それをいかにクリアしていくのかに対して、すべての人が真っ正面から向かい合い行動していかなければならないのだと思いました。
- ・世界はたくさん問題を抱えていて、そのほとんどが人間の引き起こしたものであることを残念に思いました。環境の保全と経済の発展は同時に成立することはできないと思っていたけれど、私たちの行動次第でどうにかできることが分かりました。だから、私は正しい買い物をし、正しい経済をまわしていこうと思いました。
- ・地球には本当にたくさんの切実な問題があって、それらは私たちがしっかり向き合っていかなければならない問題だと思いました。
- ・日本は比較的豊かで、私もある程度自由にお金を使っているが、正しいお金の使い方をするのは大切であり、特に100円ショップが何故安く買えるのかについて知ることができ、解決しないとイケない問題なのだと分かりました。
- ・「つながりを生かした行動」という言葉が心に残りました。遠くで起こっているような問題にも、私たちは少なからず関わっているし、今ある「新型コロナウイルス」の感染流行も、人間の行き過ぎた行動が原因だと思います。これからは地球の美しさをできる限り残していくためには、一人一人のつながりを生かした行動が大切になってくるのだと学びました。
- ・SDG s の存在については知っていたが、自分たちにはできないことではないかと思っていました。しかし、今回の講演で自分たちにもできることがたくさんあることを知り、それを実行に移していかなければならないと思いました。
- ・環境についてしっかり考えられる大人になりたい。自分が好き勝手することは、他の国や地域の資源を無駄にしたり環境を悪くしたり、良くない影響を与えていることが改めて分かった。
- ・ジェンダー平等について、女性が就職などで不利な扱いを受けることが今でも多くあることに驚きました。



- ・今回の新型コロナウイルスによる世界の経済活動の縮小によって、有害物質が大幅に減少したことから、今後の人類の努力によっては、地球環境を改善できる余地がまだまだあるように感じた。今後は、どのような行動や取組が効率よく有害物質を減らせるのかということについて調べてみたい。
- ・平等と公正と現実を、野球を観戦する人にとれた分かりやすい絵を見て、何でも平等が良いわけではないことが分かった。
- ・今まで世界の現状や課題などを学んできましたが、正直スケールが広すぎてよくわかっていませんでした。小林先生は私達でもできることを教えてくださいました。だから私も小林先生がおっしゃったように、近くで生産されているものを買うようにしたいと思いました。
- ・私は100円ショップが大好きでよく買い物もしている。でもなぜあんなに安く売られているのか、考えたこともなかった。とても安い給料で働かされている人がいることを考えると、100円均一で買い物をするのが少し申し訳ないと思った。これからは世界共通のゴールSDGsの達成に向けて、正しい買い物を心がけたいと思った。

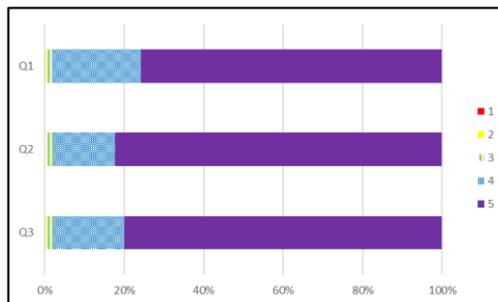
(5) いい、加減。まつやま

(講演者：松山市松山市シティプロモーション推進課 西原 進 氏、宇都宮 あゆ美 氏  
松山市まちづくり推進課 大森 俊介 氏)

- ①主旨 松山市職員から、地方自治体の持つ課題や未来を知り、日本、愛媛、本校の歴史、伝統、魅力について探究させ、日本人・愛媛県人としてのアイデンティティの確立を図る。
- ②概要 「松山市の人口の将来予想」について考察を行った。そのうえで松山市が100年後生き続けるために今現在行っている政策、また今後必要となってくる政策について説明していただいた。政策を行っていく上で「松山市がどんな都市であるか」理解することが大切であり、講演の後半は、具体的な事例を挙げていただくことでその理解を深めることができた。

③生徒評点 (低評価1 ←→ 5高評価)

- Q1. 松山市の課題について理解は深まったか。  
Q2. 松山市の魅力について理解は深まったか。  
Q3. 松山市のまちづくりについて理解は深まったか。



④生徒感想

- ・松山の良さを改めて知ることができました。松山で生活していたら当たり前と感じていることも、他の町と比較すると当たり前でないことが分かりました。松山が大好きなので、これからもこの町を大切にしていきたい。
- ・松山がどれくらい住みやすいかを実感しました。大学は県外に進学したいが、就職は松山でしたいと思いました。
- ・松山の魅力や課題を知り、自分が松山のために何ができるかを考えようと思いました。
- ・全国に誇れる素敵な町「松山」の認知度を上げたいという思いは、市民共通だと思うので、一市民として私たちも、現在行われている取組などを知っておくべきだと思いました。
- ・自分の故郷である伊予市でどのような取組がなされているのかを調べてみたい。
- ・100年後に松山市の人口がどのくらい減少するのかを知り、人口減少の問題の現実味が増しました。
- ・「坂の上の雲」を生かした町づくりがなされていることを初めて知りました。身近なところにどんな「坂の上の雲」が関連しているところがあるのかを調べてみたいと思いました。
- ・県外の大学に進学しようと考えているが、松山の良さをたくさんの人に伝えられるように、これから調べていきたい。
- ・都会には確かに憧れがあるけれど、私たちが気付いていないだけで、愛媛には都会に負けない魅力がたくさんあるのだと思いました。



- ・松山市の人口減少を防ぐためには、自治体や企業だけでなく、市民の頑張りも必要であることが分かった。松山市をPRするためには、自分たちが松山の良さを知り、愛着を抱いて誇りを持つことが大切だと思った。私は松山市のフィールドミュージアム構想を知らなかったのので、実際に赴いて、どんな活動が行われているのか知りたいと思った。松山市への移住・定住を促進させるための相談窓口の設置や移住フェアについても知らなかった。移住してくる人たちが松山市や愛媛県の何に魅力を感じたのか、詳しく知りたいと思った。
- ・松山市の人口が100年後、16万人になるという話を聞いてとても驚いた。自分が育った街に人がいなくなるというのは悲しいことだと改めて思った。人口減少を止めるためにも、まずは自分が松山の魅力について知って周りの人に伝えられるようになりたい。まずは、松山に住む人が松山の魅力に気付き、より松山を好きになる必要があると思う。また市外・県外の人に松山の魅力について知らせ、松山に住みたいと思ってくれる人を増やすことが大切だと思う。
- ・私は松山に住んでいないので、松山市で行われている地域活性化計画や広報誌のことを全然知らず、講演を聞いて興味を持った。自分でも様々なことを調べてみたいと思った。通学してみると、市内電車の便が多く助かっている。またこぢんまりとした雰囲気もあり、とても過ごしやすいと実感している。講演を聞いて、「松山っていいところだな」と改めて思った。



(6) ワークショップ「笑顔のまつやま まちかど講座」

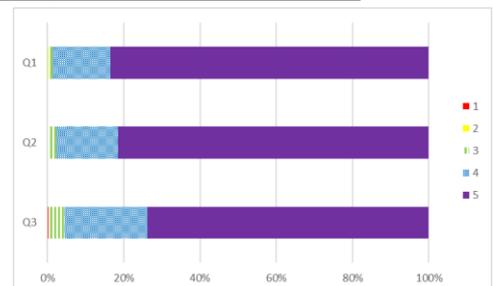
①主旨 地域の魅力や課題について「笑顔のまつやま まちかど講座」を活用し、松山市の担当者から直接話を聞き、興味・関心を高めるとともに、2学期から始まる課題研究のテーマについて考えさせる。

②内容 以下の15講座に分かれて講義及び質疑応答を行った。

講座名	担当部署
① どうなる？公共施設の今後	管財課
② 松山がなくなる？ ～人口減少に歯止めをかけるために～	企画戦略課
③ 松山市の観光～松山城・道後温泉の取組～	観光・国際交流課
④ みんなで支えあう地域福祉について	保健福祉政策課
⑤ くすりと健康	医事薬事課
⑥ 松山市の子ども・子育て支援	子育て支援課
⑦ スマートシティの推進～温暖化を防ぐためにできること～	環境モデル都市推進課
⑧ 家庭でできる食品ロス削減のススメ	環境モデル都市推進課
⑨ 松山市が目指すまちづくり	企画戦略課
⑩ 美しい景観まちづくり	都市デザイン課
⑪ 災害への備え	防災・危機管理課
⑫ 空き家への対策について	住宅課
⑬ ことばを大切にすまち松山	文化・ことば課
⑭ 松山再発見 - 意外と知らない松山の歴史と文化財	文化財課
⑮ 選挙豆知識	松山市選挙管理委員会

③生徒評点（低評価1 ←→ 5 高評価）

- Q1. 市政の取り組みについて理解することができたか。
- Q2. 松山市の魅力や課題について理解は深まったか。
- Q3. 受講を通して自己との接点を見つけることができたか。



④生徒感想

- ・松山にはたくさんの文化財があることに驚いた。特に国宝が三つもあることに驚きました。時間があるときに訪れてみたいと思った。
- ・松山市での景観について学ぶことができ、道後温泉周辺の景観の違いを見付けることができた。その場所の景観や街並みを崩さないように大きな看板や派手な色を抑えて、空間が整備されていることを知りました。また、景観形成基準があり、地区内での特性や周辺の自然と調和した色彩としていることを知りました。

た。花園通の景観街づくりの効果では、歩行者通行量が2倍にもなっていました。

- 食品ロスについて学んだ。今、松山市がどのような取り組みをしているのかを教えてもらうだけでなく、食品ロスを家庭でなくす方法についても教わった。また、今のコロナの影響でプラごみが増えてきたことは初耳であった。かなり興味深い話が聞けたと思う。また環境と何らかの事業を関係づけて考えることもできた。他人事ではなく、将来を担う存在として、また自分に関係のあることとして考えることができたと思う。これからずっと松山、愛媛に残るわけでもないのだが、それでもこれほどこの都市に行っても無駄にはならない話であったので、とてもいい学習ができたと思う。
- 愛媛は全国的に見て、空き家が特に多いことが分かった。また空き家の定義というもの「常用で住んだり使用されたりしていないものだ」ということも分かった。そう考えると、私の家の周囲にも空き家は多い。ただ、空き家が増えるということは、治安の悪化に直結しているのではないかと思った。
- 日ごろ気になっているが知らなかったことをたくさん知れてよかった。災害についての講座では、南海トラフの地震、愛媛県について詳しく学びました。自分の身を守るための情報を手に入れられました。生き埋め状態になる人が35,000人、近隣住民が助ける割合は80%、そのうち生きていた人80%、私たちが力を合わせると多くの人を助けることができることに驚きました。高齢者の視点からは高校生は頼れる人、心強い人ととらえられています。日ごろの訓練がいかに大切か、実感させられるものでした。自助を徹底していきたいです。
- 松山の観光客が7年連続で増加していると聞いて驚きました。松山城では松山城の歴史的な魅力もアピールしつつ、新たな魅力（甲冑の試着体験など）を発信することで外国人観光客の増加や松山城のファンやリピーターの確保などをしていました。道後温泉では現在のところ本館は修理中ですが、それでも観光客を増やすために、道後REBORNプロジェクトで火の鳥とコラボしたり、飛鳥乃湯という温泉を建てたりして、修理中でも観光業ができるように工夫されていました。
- 家庭科のホームプロジェクトでやろうと考えていたのが、食品ロス関係だったので最適な講座だった。家に帰ってから早速冷蔵庫の中の食品の賞味/消費期限を調べてみたが、奥のほうに収納しているものほとんどが期限切れだった。いただいたマグネット型の食ロステープを食品ロス防止に有効に使い、家庭科の課題に取り組みたいと思った。
- 愛媛県は全国で7番目に空き家が多く、年々その棟数が増加し続けていると聞いて、とても驚いた。普段の生活で空き家について意識することはなかったが、よく考えてみると、管理されず雑草や木が生い茂っている空き家があって、意外にも身近に空き家があるものだと感じた。
- 今までに小中学校などで災害の被害を防ぐために非常持ち出し袋の備えや家具の固定などについて何度も言われてきたが「市民意識調査」などで備えが十分にできていない人が多いのはとても意外な結果だと思った。小中学校では地域の危険な場所や避難場所を確認してきたが、松山東高校に入ってから高校周辺の防災情報を気にかけていなかったのも、ハザードマップなどで再度確認したいと思った。
- 松山市ではスマートシティという構想があることを初めて知った。ここ100年間の間に松山の気温は2.2度も上昇していて、今も上昇傾向にある。そのため自然災害が多くあり、またそのようなことがないようにするため、どのようにして二酸化炭素などの削減量を減らすか、考えていきたい。
- 第6次松山市総合計画があることを初めて知った。これらの計画を達成できれば、よりよい松山が形成されると思う。またいろいろなランキングで松山市が上位に入っていて自分が知らない松山市が全国に誇れるものがたくさんあって、それらを知ることができるいい機会になった。
- 松山市と「ことば」のかかわりについてよくわかった。私たちは普段から松山のことばに囲まれているのであまり意識していなかったけれど、松山は多くの温かいことばであふれている。ことばは私たちの心を豊かにしてくれると思う。これからは松山にあふれる言葉を意識して味わって生活していきたい。
- 待機児童の話に興味を持った。子供の人口は減少してきているのに、待機児童が増え続けていることに驚いた。しかし松山市では私が思っていた以上の取り組みが行われてきていて、とても力が入っていると感じた。私がこの講座を通じて思ったことは、保育士を目指す人向けのイベントがもっとあれば、保育士を目指す人ももっと増えるのではないかということだ。



- ・医療系の話にはもともと興味があったので、とても面白かった。風邪の時などに使うので薬のことは知っているつもりだったが、副作用のことやほかの人と共有できないことなど、新しいことがたくさん学べてよかったです。私は今、かかりつけ医が決まっていないので、お話の中にあつたように、かかりつけ医を探したいです。

(7) ★未来のふる里産業人養成講座（松山市連携事業）

松山から世界へ。世界から松山へ。田丸の場合。（講演者：ショートショート作家 田丸 雅智 氏）

- ①主旨 グローバル化や少子高齢化など社会環境が大きく変化する中、どの世界に出ても活躍できる社会人、産業人を目指して、時代に対応した新たなキーパーソンとなり得る人材の育成を図る。
- ②内容 小説、松山、学業、世界という四つの視点からお話をいただきましたが、学業については先生が東高生だった時、ひたすら勉強したにもかかわらずむしろ成績が下がった時期もあり、宿題も手につかないほど落ち込んだことがあったというお話がありました。そのような中、「自分に足りないものはなにか」と考え、「どうすれば克服できるか」と考え、「ひたすら実行」し、「結果はどうか」と振り返るといふサイクルを信じ、悩みながらもひたすらやりぬくことで成績を伸ばしたというエピソードをお聞きしました。「学んだことは役に立つ、役に立たせる、生かすも殺すも自分次第」という言葉では、生徒たちは何度も力強くうなずきながら先生の言葉を胸に刻んでいるようでした。松山は風土も人も心も穏やかであり、言葉に彩られた街、と先生は感じられるそうです。ことばと文学の町松山で勉学に励めることを誇りに思い、田丸先生のように私たちもしっかり頑張っていこうと改めて胸に刻んだ講演でした。

③生徒感想

- ・学校から帰ってからのルーティーンを聞いて、勉強時間の確保の仕方に驚いた。一度仮眠を取ってから、もう一度勉強のスイッチを入れることができることに驚いた。今の自分の目標は「テストでいい点を取る」「大学入試」だけなので、その先、自分が何をしたいのか見附きたい。情熱と実行を大切に、見つけた夢に向かって努力をしたい。自分も、どうすれば成功につなげられるか、失敗を繰り返すかもしれないが失敗からも学べることを考えて、自分なりの考えを確立させていきたい。
- ・講演を聞いてショートショートがどういうものなのか、どのようにして創作するのかということを知ることができた。思っていたより簡単に創作できることだということが分かり、気軽に挑戦してみたいと感じることができた。
- ・テストで100位を取り、次のテストで努力しても順位が落ちたといっていてとても驚いた。しかしそこから考えて悩み、毎日努力を惜しまず繰り返して最終的には1位を取ったといわれていた。私もこれから考えて自分にあった方法をひたすら繰り返し、学力向上のために努めようと思った。
- ・学んだことは役に立つかという疑問については、田丸さんはすべて役に立つと考えることが重要だと言っていた。学んだことは無意味だと思うのは、過去の自分がしてきたことを否定的にとらえることになってしまうと思う。だから今まで自分がしてきたこと、学んだことに意味を持たせるためにも私は学んだことは役に立つと考えるようにしようと思った。
- ・田丸さんのお話を聞いて、勉強に対する価値観が変わった。大学受験のためだけにテスト勉強をするのではなく、人生の基礎ととらえて、これから一生役に立つものであろうと考えられるようになった。今、学んだことはこれからの人生でいつかは使えると考え、焦らず一つ一つ丁寧に勉強したい。また自分で考える力や自分で実行する力を身に付けて、人に頼りすぎている今を抜け出し、将来は一人で生きていけるようになりたい。
- ・人生の基礎は勉強から学ぶことができるという言葉がすごく印象的で、勉強すること自体にはあまり意味はないけれども、やっていく中で自分で見附けた「考えて、ひたすらやって、結果はどうか、足りないものを見付けてまたやる」というサイクルやプロセスが、将来、仕事やそのほかのことをやって行くときにいかせるので、勉強することで、それらを見付けて実行することができるようになりたいと思った。
- ・目標を達成することを目的にしてはいけなくて、その先の最終的なゴールに向けての通過点でしかないということだ。目標を達成するというをゴールにしてしまうと、やはり燃え尽きてしまってやる気が起



こらないということが生じてしまう。やはり目標はゴールではなく通過点にすることが大切だと思った。

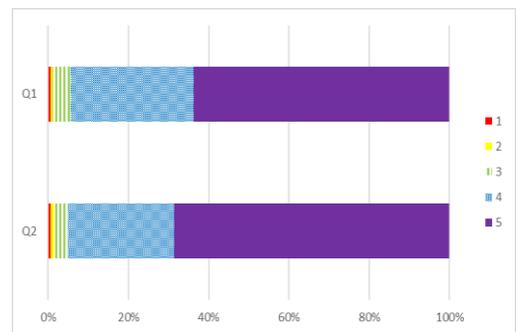
- 今回の田丸先生の話聞いて、特に印象に残ったのは、「学んだことは役に立つ」ではなく、「学んだことを役に立たせる」という表現のほうが正しく、単に学ぶだけでなく、それをどう活かしていくかが大切だとわかりました。今回の講演で学んだことを実生活で活かしていきたいと思う。

(8) 企業の見方&地域産品のマーケティング (講演者：学習院大学経済学部経営学科 上田 隆徳教授)

- ①主旨 愛媛の企業がグローバル化を進めるための課題とその克服方法について研究するために、グローバル化や企業に関する基礎的な知識や研究の手法について学ぶ。
- ②内容 講演の前半では、企業を研究するために必要となる経済学と経営学についての基礎的な知識を教示していただいた。また、先生がご専門とされているマーケティングについても具体的な商品を例に挙げながら簡潔に説明していただいた。マーケティングにおいては、「3C分析-Customer-Competition-Company」が有効であり、地域創生においても経営学の手法を用いることが有効であることを学びました。後半は、先生が実際に関わりを持たれた「屋久島」「能登半島」「海士町」を例に地域活性化についてお話していただいた。「地域ブランド要素の発見」や「地域と企業の連携」、さらに「Only 1であることの重要性」について具体的なお話をしていただき、グローバル事業を取り組んでいく我々にとって大変有意義な時間となった。

③生徒評点 (低評価 1 ←→ 5 高評価)

- Q1. 企業の見方について理解は深まったか。
- Q2. 地域活性化について理解は深まったか。



④生徒感想

- 竹島水族館についての話が、一番印象に残っている。閉館間近だった水族館が活気を取り戻していくのは珍しく、印象に残った。様々な工夫をして持続可能性の高い水族館にしていけることはとても難しかったと思う。このような変化を可能にするには、なによりも地域住民の協力が不可欠だったと思う。これからマーケティングについて調べ、本質的なニーズを探っていきたいと考える。
- 企業を研究するための視点として、ある商品を売るときにそのものの本質を考え、その本質から「本質的ニーズ」を作り出すことが大切だと言っていたのがとても印象に残っている。これは企業を研究するための視点ではなく、いろいろなことに生かせる考え方だと思う。勉強などでただ普通に覚えるだけではすぐに忘れてしまう。そのものの本質を知ることができれば、すぐには忘れないだろうと思う。また、地域活性化についての考え方でナンバーワンかオンリーワンになる必要がある、ということを知った。確かに言われてみると、日本で一番高い山は知っているが、二番目に高い山の名前は知らない。自分自身もナンバーワンかオンリーワンの存在になりたい。
- この講演を聞くまで、僕は地域活性化にあまり興味はなかった。またマーケティングという言葉さえも知らなかった。しかし、講師の先生の話聞くにつれて、地域を活性化するのに必要な手段や技術、また精神を知ることができ、興味もわいてきた。特に、竹島水族館の財政の立て直しの話は特におもしろく、集中して聞くことができた。自分が住んでいる北条地域は、衰退が進行している過疎地域である。マーケティングや差別化、今回学んだことを生かして自分に何ができるか、今一度考えてみたいと思う。
- 企業が事業を成功させるため、立て直すためにはマーケティングが必要になってくると思いました。その中でも特に物事の本質を知ることが最も大切であると感じた。ユーザーが求めていること、考えていることというのは簡単にわかるものではないと思う。だからこそ、相手のことやユーザーのことをよく観察して、相手の求めるものの本質を見極めることが必要になってくると思う。
- ナンバーワンではなく、オンリーワンになることが必要ということにすごく納得した。ナンバーワンのほうが一見よく見えるし目指すべきところだと思う。しかしお客に注目されて、実際に売れるのはオンリーワンのほうで、常識破りであることが必要だと分かった。
- 講演を聞いて、売れるとは何かという問題の答えが、商品の本質をしっかりアピールしていて、かつ消費者が欲しいと思うような答えで素晴らしいと思った。私はG明教の時間に地域に根付いているスポーツとしてビーチボールについて調べている。今回の講演で経営学の視点についてもお話をお伺いすることができたので、これからの研究でも、今日学んだことを生かしていきたい。高校生になり、地元で過ごす時間が少なくなったけれども、違う場所で生活することで地元の良さを深く感じることもできたので、地域活



性化の活動に積極的に参加したいと思う。

- 地域を売り込むための工夫や、心得などを、経営学の視点から具体的に教えていただけて、とてもためになった。今まで「地域を売り込んでいこう」という話で止まっていたので、その売り込み方を聞けたおかげでより詳細に地域活性化について考えることができた。「悪いところを直すより、工夫して良いところを伸ばす」という言葉が心に残った。これからも知恵を絞って、自分を伸ばしていきたいと思う。

(9) 企業のグローバル化の取組と課題 (講演者：三浦工業株式会社 高津 敦士 氏  
株式会社アテックス 西本 大介 氏)

☆県内企業フィールドワーク代替講演

- ①主旨 地元企業の担当者から、身近な企業のグローバル化や地域貢献の取組を学び、グローバルな視点の育成を図るとともに、様々な課題への解決方法を学び課題研究の深化を図る。企業に関する基礎的な知識や研究の手法について学ぶ。
- ②内容 県内企業フィールドワークを予定していた企業の中から2社に協力を依頼し、オンラインでの講演会を実施した。各企業の業務内容や海外進出の様子、海外で事業を進めていく上での課題やその対応策などについて、ご自身の経験をもとに分かりやすく講義していただいた。

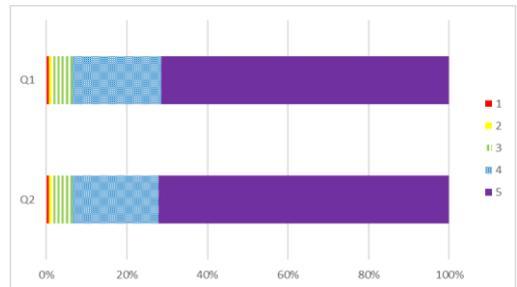
③生徒評点 (低評価 1 ←→ 5 高評価)

Q1. 企業の取組について理解は深まったか。

Q2. 県内企業についての理解は深まったか。

④生徒感想

- どちらの会社とも名前を知っていたものの、どんなものを作っているのかは知らなかったので講演を聞くことができよかった。どちらの会社も海外に事業を広げている。そこでは英語力や人間力が必須で、自分で判断できない人は必要とされない。いろんな経験を積むことが大切だと思った。
- 2社の話を聞き、特に印象に残ったことは、これからの社会において英語力が必須である、ということである。グローバル化が進む中では、やはり英語力は必要なのだな、と思った。
- 三浦工業の話を聞き、学歴について僕は深く考えることができた。僕は学歴こそが将来の職業選択に大きく関係するのだと思っていたが、今回の講演を聞き、学歴は人生の選択肢を広げるためのものにすぎないと分かった。
- これまでも東高校でグローバル・グローカルとして海外の人とのコミュニケーションについて学んできたが、ビジネスでの英語にはまた少し違う意味があるのだと思った。ただ勉強ができればいいというのではなく、人間性がとても大切なのだ、という言葉が心に響き、人との接し方についても日ごろから気を付けていきたい、と思った。
- アテックスの講演では、農業問題においては近年、農業従事者が減ってきているという課題もあるが、その中で農業の効率化等に貢献されている企業が松山にあるということで、どのようにして農業を支えているのか、またその商品についても知る事ができ、とても興味がわいたとともに、もっと深く知りたいと思った。
- 日本の技術力の高さに改めて驚かされた。「ボイラー」と聞いて大きな機械を想像してはいたが、どのような用途で使用されているのかは知らなかった。今日の講演で、ボイラーが食品機器、メディカル機器、水処理機器などのように多様な用途で使用されていることを知った。とりわけ三浦工業は商品のアフターケアに力を入られているということで、近年売っただけで終わっている企業が多くなっている中、その取り組みが素晴らしいと思った。
- 2社とも商品にとっても誇りを持っていて、細部にまでこだわった仕事をされていて素晴らしいと思った。将来はモノづくりの仕事をしたいと思っているので、このように企業説明の際には、自分自身も自信をもって紹介できるような製品を作り、たくさんの人の役に立てたらいいな、と思った。



- ・アテックスの取り組みでは、世の中に役に立つものを作るためにまずやってみて形にしていくという取り組みが紹介されていたが、私自身も、これから新しい知識や技術を身に付けるためにも、まず何事にもチャレンジしてみたいと思った。
- ・愛媛の中小企業が業界のトップシェアを保っているということで「やればできるんだ」ということを感じた。両社の話に共通しているのは、どちらもやればできるんだ、ということだった。どちらの会社にも「身近な人の役に立つように」という思いが原点にあり、そのような思いがあるからこそどちらも良い用品が作れるのだろうと思った。
- ・両社とも多国籍な人材登用をされているということで、グローバル社会に対応しているのだな、と思った。
- ・二つの会社とも海外を視野に入れて活動しており、外国人社員も大勢登用しているということで、グローバルな会社だと思った。ほかの企業がやっていないことをやりつつ、市場のニーズにこたえる商品を作ることが大切だとよくわかった。また自分たち生徒に対しても奨学金などの形で出資していただいているということで、海外だけでなく地域にも目を向けて活動しているということが素晴らしいと思った。自分も英語力はもちろん、世界で通用する人材となれるように人間力を高めていきたいと思った。
- ・企業のグローバル化や課題について理解することができた。グローバル化が進む中で、以前は英語ができれば有利くらいの感覚しかなかったが、今は英語ができることが最低条件になっているのだと思った。また海外では自分自身で判断できることが最低条件になっているということで、失敗を恐れずに何事にもチャレンジしていきたいと思った。
- ・県内に本社を置く企業のことはあまり知らなかったが、業界のトップシェアを誇る企業があると知り、素晴らしいと思った。製造者という視点からだけではなく消費者という視点からも製品を見ることはなかなか難しいことだと思う。そのような課題を克服し、日々観察を行うことでシェアが達成されているのだと思った。今日の講義で学んだことを、今後の課題研究にも生かしていきたい。

## 会社案内（本社）



### (10) ★未来のふる里産業人養成講座（松山市連携事業） 選択受講

街場の経済学 一会社を知って、社会を学ぶ（講演者：元日本経済新聞社特別編集委員 末村 篤 氏）

- ①主旨 グローバル化や少子高齢化など社会環境が大きく変化する中、どの世界に出ても活躍できる社会人、産業人を目指して、時代に対応した新たなキーパーソンとなり得る人材の育成を図る。
- ②内容 会社とは何かについて詳しく話していただいた。自分が生きる社会、時代、世界がどういうものなのか考えるにあたり、会社を知っておくことが必要であり、会社を抜きにした社会はあり得ず、社会を学ぶには会社を知ることが大切であることを伝えていただいた。郷土の課題解決に貢献する志を持った人材を育成するためにも、会社を身近に感じて欲しいと教えていただいた。



#### ③生徒感想

- ・ゲマインシャフトとゲゼルシャフトに関しては、日本の縁を大切にする精神、人とのつながりを意識する性格が、成長を目的としないゲマインシャフト的な会社の乱立を導いたのだと思います。一方、現在の日本は、高度経済成長を経て、ゲゼルシャフト的な利益を求めて競争することで成長する会社が増えていると思う。
- ・投資の話は特に面白かった。株主になることで様々な企業や社会構造を知ることができるという見方は自分にはなかった。儲かるという意識ではなく、新しい視点で会社や社会を知る「大人のたしなみ」としての観点から株主になるのは面白そうだと思いました。株価と社会の動きが密接にかかわりあっていることを改めて知ることができた。
- ・資本主義はそもそも経営者が経営的に最も報われる仕組みのはずなのに今は他人の金を運用するCEOやFMが儲かる、ということです。FMという職業もしっかり調べてみたいと思いました。
- ・あまりこれまで株価に関心を持ったことはなかった。株というとすごく難しいものという印象があり、自分にとっては遠いものとして自分の興味関心の中から無意識にとりのぞいてしまっていた。今日の話聞いて、株は遠い話ではなく、株式という仕組みがなければ制限が多い中で経営をしなければならなく

なり、そうなるとう経済も発展していかなくなるだろうと思う。経済と株式、株式会社と社会という関係は切っても切れない関係なのだと思う。そう考えると自分にとって決して遠い存在ではなく、ただ言葉のイメージだけで興味関心の壁を作っていたのではないかと反省させられた。

- 職業の選択においては、まず自分の立ち位置がどこにあるのかをしっかりと自覚することが必要だとよく言われる。私はまだ、自分自身の立ち位置が分かっていないと思う。そのため将来の夢や行きたい大学がはっきりと決まっていない。高校3年間があつという間に終わってしまうので、まずは自分の現在地を知ることから始めたい。
- 日本ではたくさんの数の企業がある。テレビを見ていてもたくさんのCMがあり、それぞれが消費者に対して多様なサービスを提供している。現代社会の授業では政治を中心に勉強していたので、会社を通して社会を見るということをしたが、思っている以上に社会において会社の果たす役割が大きいということが分かった。
- 株式会社は社会に有用な商品やサービスを提供して富を創造する経済主体、いわば私たちの日々の暮らしを支える政府の次の主体といえる。会社は所得分配をして賃金を従業員に支払い、金融費用は金融機関に、配当は株主に、租税公課を政府に、そして内部留保を自分自身にというように株主の意向を踏まえつつ配分を決定している。会社一つの存在でこれほどに経済を回すことができるということが驚きだった。また会社は市場メカニズムの中核でもあるということも分かった。このように株式会社は社会の成長には欠かせないものだ。会社は社会を映す鏡でもあり、より今の世界を身近に感じることができた。
- 日本には220万社もの株式会社が存在し、そのうち1万7000社は愛媛にあると知った時は、あまり実感がわかなかった。普段、何気なくこの町で生活しているが、機会があつたらこのようなことも意識してみたい。将来、どこかの会社で就職することになるのだろうが、今考えているのはそこまで。自分は今何がしたいからどの会社に就職したい、そのために今はこれをやっておきたい、などということあまり考えたことがなかった。そう考えると、今回の講演は、自分がやりたいことを見付け、また会社に興味を持つということについての、いいきっかけになった。
- 末村さんが、「君たちの人生が実りあるものになりますように」とおっしゃってくださいました。私は新しいことに挑戦しようとするとき、ためらってしまうことがよくある。失敗したらどうしよう、と後ろ向きなことばかり考えてしまう。挑戦しないと何も始まらないし、たった一度きりの人生なので失敗を恐れず、やらずに後悔するよりやってみよう後悔するようにしたい。

#### (11) ★未来のふる里産業人養成講座（松山市連携事業） 選択受講

5Gなど最先端の情報通信技術（ICT）と情報通信社会の展望—世界と連携して、どのような新しい社会を構築するか—  
講演者：損害保険ジャパン株式会社 顧問 阪本 泰男 氏

①主旨 グローバル化や少子高齢化など社会環境が大きく変化する中、どの世界に出ても活躍できる社会人、産業人を目標として、時代に対応した新たなキーマンとなり得る人材の育成を図る。

②内容 最先端の情報通信技術（ICT）と情報通信社会の展望についてお話しいただきました。今後日本においても拡大展開される5Gの特徴を地域に落とし込んでいくことで、現在、地域社会が抱えている問題の解決に繋がっていく可能性があることを認識することができました。また、ICTが指数関数的に発達していく中で、我々がどのような社会を形成していくべきか深く考えることができました。



#### ③生徒感想

- 年々情報化が進んでいる現代ではグローバルに対する大きな可能性があるように感じる。インターネットで様々な人がつながりを持ち生産性を向上させていくことはとても良いと思う反面、その背後には大きな課題が残ったままであり、人類が情報社会に追い越されないようにすることが大切だと思った。
- セキュリティや人権に関する問題に関しては、私たちはインターネットにのまれているようにも感じている。インターネットの匿名性を利用して人権を傷つけることは間違っているのではないかと思います。
- おもに5Gの普及に伴い、他地域間でのインターネットによるつながりが増えているのはとても良いことだと思う。
- インターネットが普及したことで世の中が便利になったのは間違いがないが、一方で情報格差も広がっている。インターネットを使えるためにはスマホやパソコンのような情報機器が必要だが、それを購入できるかどうかで格差が出ているのだと考えました。これまで5Gについて何も知らなかったので、今回詳しく説明していただき、とてもわかりやすかったです。4Gと比べても100倍も速度が速いことにとっても驚

きました。5Gになるともっと世の中が便利になるとと思いますが、逆にデメリットも考えなければいけないと思います。

- SDGsは思うようにはうまくいっていないが、今回の講演を聞いて、ICTの技術革新を利用することで解決できるかもしれないということに興味を持った。また5Gを生かしたモバイル治療室の構築が可能になるかもしれないという話がとても興味深かった。1台のトラックのような場所にいろいろな高度医療情報機器を取り入れたモバイル診療が実現すれば、医師が不足している地域でも充実した医療を提供することが可能であるという。
- ICTとSDGsの点では、女性一人一人に携帯を配布するだけでも女性ジェンダーの問題が解決されるということで、ジェンダーの問題を見直す良い機会になった。私たちが当たり前のように使っているものが、世界を変えるきっかけになるのかもしれない。松山で何ができるか考え、実行していきたい。
- 現在、様々なところでインターネットが使用されるようになってきたが、そのインターネットの中でも多くの特徴や複雑な仕組みがあることが分かった。特に面白いと感じたのは5Gの説明だ。言葉だけで5Gと言われてもあまりピンとこないが、超高速で映画をダウンロードできたり、遅延が1ミリ秒程などほとんどゼロに等しくなるということは、今まででは考えられないようなことなので、実現したら今よりもずっと便利になるのかな、と思う。
- 以前は電話機のサイズも大きかったが、現在ではほとんどの高校生がスマートフォンを持っているなど、これまで考えられなかったようなことが生じている。つい20、30年前では考えられなかったようなことだ。ものすごいスピードで情報通信技術が発達しているということだろう。これからさらに技術が発展していけば、6Gの実現も可能になってくると思う。将来は情報に関わる仕事に就きたいと考えているが、そういったとき、人間を中心に考えて、人間が少しでも利益を得られるようなことができればいいと思う。そして不利益を被る人が少しでも減らせるような社会が実現できればいいと思う。
- このように進歩していく中で私たちができることは、まず自分たちの目で見えて何ができるのかを考え、実践していくことだ。すぐに大きな活動につながることはないかもしれないが、すこしでもグローバルに物事を考えるということが必要になってくると思う。自分のことだけを考えて生活するのではなく、視点を変えて考えてみるということをしていきたい。
- 5Gの通信速度を利用して遠隔離島などでの遠隔診療が可能になるかもしれないということは大きな進歩だと思う。これからの社会ではこのような技術が役に立っていくと思うので、自分もICTに関わる勉強を積極的にしていきたいと思った。
- インターネットを使っている人の割合が世界で53%くらいということで、いまだに世界の半分くらいの人にはインターネットを使えていないということを知って驚いた。自分はゲーム等でインターネットを利用しているが、もっと普及率が高いと思っていた。自分のクラスでは全員スマートフォンを保有しているようだ。そのためかスマートフォンを持っていることは当たり前のような気がしていたが、世界の半分の人には利用できないのだと知ると、少ないという印象を受けた。人口増加についても、技術革新にしても、現代という時代は非常に変化の速い時代であり、自分がすごい時代に生まれているのだと思うと同時に、これからどうなるのかわからないということが少し怖いとも思う。また、5Gの普及にしても松山ではまだまだ先のことであるとも思うので、このような情報格差の解消もこれからの課題になるのだろうと思った。
- 情報工学の分野で話が聞けて良かった。自分の中でばらばらだった知識がどんどん結びついていったことが一番の収穫だった。初めて聞いた言葉もたくさんあったので、個人的に調べてみたいと思った。その中でも6Gには特に興味を持った。いまだ自分たちの中に5Gが確立していない状況だが、すでに次世代の次世代を見据えているのは素晴らしいと思った。特に6Gの中でも低消費電力には可能性を感じた。ユーザーとして充電の管理が得意ではないので、ワイヤレス充電という技術にはとても魅力を感じる。ワイヤースタンドを使用しないでどうやって電気を送電するのだろうかと思うと、とても不思議に感じる。こういった知識は普段の生活の中ではあまり目にすることがないので、自分から探していきたい。

## 2 海外フィールドワーク代替交流【G明教I】

### (1) 主旨

滞在先で主に県内企業の海外拠点をフィールドワークする。同時にフィールドワーク先の現地大学・高校との交流学習を行い、英語での本校・愛媛・日本の紹介や成果発表プレゼンテーション、ディスカッションを行い、高度な語学力・コミュニケーション能力、思考力・判断力・表現力・分析力の育成を図る。

### (2) 実施内容

年度当初は、8月2日(日)～8月6日(木)の4泊5日で台湾、10月19日(月)～10月23日(金)の4泊5日で中国(北京・上海)を訪問する計画であったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、台湾の日程を12月5日(土)～12月9日(水)に変更した。生徒に参加希望をとり、選考の結果それ

ぞれ8名の参加者を決定した。しかし、海外渡航中止勧告が継続していたために、オンラインでの交流に変更して実施した。

### ①中国

実施日時 10月20日(火) 15:00~17:30  
交流先 三浦工業(中国)有限公司、北京月壇中学校  
内容 15:00~16:00 三浦工業(中国)有限公司  
学校紹介  
三浦工業事業内容紹介  
質疑応答  
16:45~17:30 北京月壇中学校  
学校紹介(両校)  
両国の文化紹介  
質疑応答



#### 生徒感想

##### <三浦工業(中国)有限公司との交流>

- ・コロナ禍の中での仕事や中国の私生活など、日本にいる私たちには感じることをできないようなことを知ることができました。三浦工業について詳しく知らなかったけれど、会社の仕組みなどを知ることができて良かった。
- ・今の高校生が学んでおけば良いこと、日本人から見た中国と、中国から見た日本の違いを知ることができた。海外で働くことは大変なことではあるが、それ以上に自分のためになるものではないかと感じた。
- ・言葉の壁を乗り越えて、企業活動に協力して取り組んでいて、国の違いは人間関係には関係ないということを実感しました。
- ・中国での感染症対策や電子マネー化の推進などを知ることができ、改めて中国に行ってみたいという気持ちが強くなりました。

##### <北京月壇中学との交流>

- ・本当に日本語が上手で、日本の文化にも興味を持ってくれていてうれしかった。直接会えなかったので、細かい表情の変化を読み取ることができず残念でした。
- ・日本と中国での文化に対する考え方の違いを知り、中国の文化について大変興味を持ちました。また、中国以外の国の文化についても調べてみたいと思うようになりました。オンラインでの交流はなかなか難しいけれど、伝えようとする気持ちが一番大切であると思いました。
- ・交流によって日本文化と中国文化のつながりについても知ることができました。
- ・同世代の人たちと交流することができてとても楽しかった。ぜひ機会があれば、現地に行きもう一度交流してみたいです。



### ②台湾

実施日時 12月15日(火) 10:00~11:00  
交流先 台湾三浦工業株式会社  
内容 10:00~10:10 学校紹介  
10:10~10:25 台湾三浦工業株式会社の事業紹介  
10:25~11:00 質疑応答

#### 生徒感想

- ・日本の三浦工業とは違う雰囲気を感じました。何でもチャレンジできる社風で、自分の才能がより伸ばせる企業だと思います。社長の三本順一さんや台湾の社員の方との関わりの中で、温かみや優しさを感じ台湾らしさも存分に感じられました。また、台湾三浦の台湾での活躍を聞いて、地元松山の企業が世界で羽ばたいていることを、とても誇らしく思います。台湾の環境に対する考え方や政策、取り組みを学ぶことができたのはとても良かったと思います。実際訪問はできませんでしたが、それに劣らない交流で充実していました。
- ・台湾三浦との交流を通じて、客観的に日本のことを考えることができるようになりました。私は“Made in Japan”は品質がいいというイメージがありとても人気があると思っていました。しかし、近年中国の商品技術には見習うべき所がたくさんあると言われていて、海外の技術力の発展に驚くと同時に台湾

三浦の“ミウラブランド”の確立を目指す姿勢からは、グローバル企業としての発展がうかがえました。また、台湾での生活や国際社会で活躍するために必要なことなどグローバル社会で生き抜くためのアドバイスも多くいただき、とても貴重な経験となりました。

- ・台湾三浦の企業と交流してみて、日本人の役割は台湾で日本のビジネスを生かすことだと言われていて、日本のビジネスが重要視されていると改めて感じた。また、現地の人に日本の技術をレクチャーすることも大切な役割であることが分かりました。どこの国でも言語の壁にぶつかるが、努力していくことが大切だと分かりました。
- ・コスト面ではなく環境面に注力するという三浦工業の一貫性と、それが結果として台湾のニーズと合致しているところに感動しました。これまで同じ種類の製品ならば基本的に安い方を選択するのが合理的だと考えていたが、このような実情があることを知り、ビジネスモデルの多様性を学んだ。今後は、環境と経済の両立を図っていくことが必要だと思いました。
- ・今回、台湾三浦の方々と交流して、コロナウイルス対策の違いを学ぶことができました。台湾ではSARSの反省を生かし、迅速に対応したそうです。だから、コロナウイルスの感染者が特に少ないのだと思いました。また、日本の製品が外国で人気なことも分かりました。値段は高くても、質の高い商品を提供するという気持ちがとてもかっこいいなと思いました。とても良い経験になりました。
- ・改めて海外で働くことの大変さを感じました。文化や言葉の壁に直面しつつもやはり大切なのは「伝えたい」という気持ちなんだと思いました。私は今海外で働くことに興味があったので、とても参考になりました。
- ・実際に海外で働いている方の話が聞けて、思っていたより日本と似ているところが多いことが分かった。長年現地で働いている方や、最近働くようになった方から話を聞くことができ、いろいろな視点からの台湾を学べた。私は海外で働きたいと思っていますが、英語、中国語など現地の言葉を学び、使えるようにすることの大切さを学びました。自分は現地のことを知ることが大切だと思っていたけど、日本文化を知り伝える準備をすることも重要なことが分かりとても参考になった。
- ・日本ではなく、外国に会社を置くことのメリットや言語の違いによる大変さなどの話を聞いて学べた。また、世界中の人たちにミウラの技術を体験してもらいたいという思いが伝わり素晴らしいと思った。台湾と日本が思った以上に似ていたので、いつか台湾を訪れてみたいと思った。とても貴重な体験となったので、今後もこのような機会には参加していきたい。



実施日時 12月16日(水) 15:00~16:00

交流先 国立中興大学附属高級中学

内容	15:00~15:10	学校紹介(本校)
	15:10~15:20	学校紹介(国立中興大学附属高級中学)
	15:20~15:30	質疑応答
	15:30~16:00	交流活動

#### 生徒感想

- ・私は台湾の生徒の英語の流暢さにとても驚くとともに、自分自身への刺激を受けました。私は、この交流を通じて自分の英語力の低さを痛感しました。台湾の生徒は中国語から英語に変換しているとは思えないほど、レスポンスが速かったです。また、台湾の文化に関するクイズを通して、台湾の歴史や文化、環境への取り組みについて知ることができました。台湾について調べていたけど、分からないことも多く特に環境面についてはあまり知らなかったが、日本よりもとても進んでいて、見習うべきところも多かったです。東高体操では、楽しんでもらえて私自身も一緒に身体を動かすこともコミュニケーションの一つだと再認識できるとても良い機会となりました。
- ・初めて他国の学生と交流した経験でした。英語の発音が良くてとても聞き取りやすかった。しかし、発表の時に少しかんでしまう場面がたくさんあったので、そこが今回の反省点だと思った。今回で学んだことも多く、外国に行った時に生かせる経験がたくさんあった。台湾の学生に感謝したい。

- ・台湾には日本の技術が、日本には台湾の文化が溶け込んでいることに国際化する社会の流れを感じた。そのことを知らなかったり、意識していなかったりした自分を恥ずかしく思った。他国との相互理解のためにも今後、意識して生活していきたいと思った。
- ・海外の学校との交流でしたが、とても新鮮でした。とても明るくアクティブな生徒ばかりで、たくさんの刺激を受けました。現地を訪れたかったと強く思っています。彼らの英語はとてもレベルが高く、長い勉強時間に比例しているのだと実感しました。彼らの発表の中でも特に印象に残ったのは、環境問題についての発表です。とても分かりやすくたくさんのことを学びました。この交流が今後の学習に良い効果をもたらしてくれると思います。
- ・台湾の高校生はみんな楽しそうで、クイズやプレゼンテーションの準備などで歓迎してくださりととても嬉しかったです。これからも交流を続けていきたいです。
- ・台湾の高校生は英語のスキルがとても高く驚きました。同世代であるにも関わらず、メモを見たりするのではなく、自分の言葉として英語を使用していてすごいなと思いました。交流をしていく中で、やはり直接会ってお話ししたかったなと感じました。画面越しではあつたがたくさん刺激を受けられて良かったです。
- ・お互いにプレゼン、クイズ、東高体操などができて、とても充実した時間になった。台湾のクイズでは思ったより正解できた。実際に台湾に行けていたら、クイズに出てきた場所にも訪問できたかも知れないと思ったら残念でした。
- ・台湾と日本の教育システムが全然違っていただけでとても驚いた。また、台湾特有の科目もありとても興味深かった。文化についても教えてくださったのでとても楽しかった。東高体操はとても楽しんでいただけたのでやって良かったと思え、また一緒に踊れたので言語でなくても互いに繋がることはできるのだと実感した。とても良い経験ができた。



### 3 課題研究【G明教Ⅱ】

#### (1) 主旨

生徒の好奇心を刺激するような幅広いテーマ群についての協働的研究活動を行うことで、地域や世界の持続可能な社会に貢献する意欲と深い教養や問題解決力・コミュニケーション能力等の国際的素養の育成を図る。

#### (2) 概要

本年度から1年生の課題研究は、本校の教員が主体となって実施した。地域協働学習実施支援員の嶋村美和氏より「課題研究の進め方」について講義をしていただいた後に、各担当教員から研究概要の説明を行った。その後、希望調査を行い各講座の受講生徒を決定した。また、課題研究の導入の段階で、嶋村美和氏に作成していただいた「研究テーマの見つけ方」も活用した。課題研究は12回計24時間で取り組んだ。成果は年度末成果発表会にて発表した。

#### (3) 課題研究の担当教員及び課題研究テーマ一覧

No	氏名	課題研究テーマ
1	岡田 信	作家 大江健三郎の人生を切り拓いた人々
2	堤 元子	世界×松山×私のミライ
3	櫛部 隆志	俳都松山を支えた俳人たち
4	豊島 秀一郎	地域スポーツの役割と課題 ～愛媛FCの取り組みを通して～
5	村上 曜介	防災革命2020
6	佐々木 泰洲	そうだ、選挙に行こう ～選挙の役割と実態を、選挙管理委員会の取り組みから考えよう～
7	富田 裕昭	大学の現在と未来、大学の研究室から見える未来
8	渡部 慎司	松山東高校ゆかりの人物について調べよう
9	小笠原 遥奈	鍵盤楽器に親しみ、地域の特色を音楽で表現しよう！
10	小野 榮子	つくる責任つかう責任

11	神野 和幸	地域スポーツの持続可能な発展に向けて ～マドンナカップとひめっこビーチスクールの取り組みを通して～
12	白川 由貴	地域におけるスポーツの役割と課題 ～頑張るスポーツ選手を応援！勝ち飯の考案！～
13	長谷川 公彦	地域における文化ホールの役割と可能性 ～人と文化のグローバルな架け橋であるために～
14	阿部 秀信	地域の宝 三輪田米山を知る ～地域文化の活用を目指して～
15	秋山 奈津子	～Model United Nations@Matsuyama Higashi High School～ 模擬国連を通して多角的に見る世界と日本と愛媛
16	河合 直美	「Kahoot!」を活用して愛媛の文化を世界に紹介しよう！
17	野中 千愛	伊予弁で愛媛を世界にアピールしよう！
18	瀬野 明	いまだ知らない愛媛の魅力発見 ～英語版観光モデルコースの制作を通して～
19	檀 茂美	愛媛に住んでいる外国人の視点から、愛媛県を再発見しよう
20	越智 潤子	愛媛県の食生活について考える

(4) 各講座の研究内容（希望調査時の講師から生徒への説明内容）

No. 1

担当者	岡田 信
テーマ	作家 大江健三郎の人生を切り拓いた人々
概要	本校の卒業生である作家大江健三郎氏の人生をたどり、彼が人生の節目で出会った三人の人物について、その著作を読むことを通して、また、フィールドワークを通して理解を深める。 1 大江健三郎と渡辺一夫 2 大江健三郎と重藤文夫 3 大江健三郎と伊丹十三（宮本信子）

No. 2

担当者	堤 元子
テーマ	世界×松山×私のミライ
概要	いま、ここで、高校生であるあなたができること。今の延長線上にある未来にあなたが何をすればよいかを、調査やインタビューを通じて考えます。 1 松山市の多文化共生の現状 2 私たちは世界の中でどんな立ち位置にあるのか 3 海外から来た人は松山の高校生をどう思っているか 4 海外から来た人は何を望んでいるか 5 やさしい日本語による伝達の重要性 6 コミュニケーション能力とは何か 7 私たちにできるSDGs

No. 3

担当者	榎部 隆志
テーマ	俳都松山を支えた俳人たち
概要	本校に縁のある俳人正岡子規並びに子規が影響を与えた2人の人物の人生を学ぶとともに、その俳句を鑑賞する。また、フィールドワークや創作活動を通して理解を深める。 1 正岡子規の人生と俳句 2 高浜虚子と夏目漱石の人生と俳句 3 フィールドワークや創作活動

No. 4

担当者	豊島 秀一郎
テーマ	地域スポーツの役割と課題 ～愛媛FCの取り組みを通して～
概要	地域との関りが深い活動の1つとしてスポーツがある。愛媛にはプロサッカーチームの愛媛FCがあり、ホームゲームの際にはマッチシティ・マッチタウンと題して、県内の20市町が割り当てられた日にその地域の特性を生かしたイベントなどを実施している。これも地域貢献および地域活

	性化に向けた取り組みであり、各市町が工夫を凝らしている。このような取り組みによって、愛媛FCの集客だけでなく、地域の情報発信や活性化につながるとともに、地域課題等も考えることができる。この課題研究を通して地域に貢献できるグローバル・リーダーとしての資質を身に付けてもらいたい。
--	--

No. 5

担当者	村上 曜介
テーマ	防災革命2020
概要	<p>「阪神淡路大震災」(H7)・「新潟中越地震」(H16)・「東日本大震災」(H23)・「熊本地震」(H28)・「西日本豪雨」(H30)、平成は大災害の時代であったと思います。</p> <p>では、令和はどうなのでしょう。</p> <p>我々がその生涯を過ごすまで、多くの災害に巡り合うことは避けられない時代なのではないでしょうか。いざという時に、自分の命や、大切な家族の命を守るための意識や知識を身に付け、安全・安心が持続できるまちづくり・人づくりを進めておくことが重要です。</p> <p>「防災」は特別なものではなく、全て日常と表裏一体なものです。それを進めるためには、地域を知り、人を知り、災害を知ることが大切です。この講座では、地域や大学等の様々な人と関わり合い、親交を深めながら、防災の知識と実践力を身に付けます。</p> <p>次のような考察と実践(フィールドワーク)を計画しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・松山市の災害、日本の災害、世界の災害を知る</li> <li>・大学生防災士と一緒に防災のクロスロードゲームやHUG(ハグ:避難所運営ゲーム)</li> <li>・地域を防災の目線で見つめ直す防災まち歩きや防災マップづくり</li> <li>・学校における避難訓練の考察など</li> </ul>

No. 6

担当者	佐々木 泰洲
テーマ	そうだ、選挙に行こう ～選挙の役割と実態を、選挙管理委員会の取り組みから考えよう～
概要	<p>「愛媛県が使う約6400億円の使い道は愛媛県民の半分以下の人が決めている」</p> <p>2019年に行われた愛媛県議会議員選挙の投票率は40.39%でした。つまり、愛媛県の予算や政策を決める代表者は愛媛県の有権者の半分以下の人によって決められているのです。皆さんはこの現状をどのように感じますか。</p> <p>選挙は国や県などの自治体に意思表示ができる大切な権利であり、機会です。日本では2016年に18歳選挙権が実現し、高校生でも選挙に参加できるようになっています。</p> <p>しかし、現状は上記のとおりです。</p> <p>なぜ、投票率は上がらないのか、大切な権利や機会を放棄してしまう人が多いのだろうか。投票率を上げることは私たちの生活にどのような影響をもたらすのだろうか。</p> <p>この講座では松山市選挙管理委員会と連携し、政治や選挙についての研究、分析を行っていきます。選挙を通じて自分たちの町や生活がどのように形作られているかを知り、今後自分たちがどのように取り組んでいくべきか、考えてみましょう。</p>

No. 7

担当者	富田 裕昭
テーマ	大学の現在と未来、大学の研究室から見える未来
概要	<p>新型コロナウイルスの影響を受け、教育機関が新しい授業形態の変革などを迫られています。地元の大学を中心に、中四国の各大学の今の状況などの調査を行います。学校の9月入学などは、地域や社会への影響も大きいことから来年度すぐからの導入は見送られることになっていますが、地域の人や愛媛大学などはどう考えているのか、学生の今の生活などを含めて調査し、これからの日本の大学について考えます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 大学は秋入学(9月)に賛成か反対か。グローバルスタンダードへの移行を推進すべきか。メリット・デメリットをまとめる。</li> <li>2 AL(アクティブ・ラーニング)の授業研究は、このコロナ感染社会でどう進められるのか。高校は主体的で協働的な学習をどう進めるべきか。</li> <li>3 遠隔授業の実態とその課題</li> <li>4 大学の研究室から見える日本社会の10年後の未来</li> <li>5 人口減少社会における、日本の大学の未来</li> </ol>

	以上の5つの項目について大学に調査し、考察をしていきます。
--	-------------------------------

No. 8

担当者	渡部 慎司
テーマ	松山東高校ゆかりの人物について調べよう。
概要	これから、海外で活躍することも多い東高生だが、松山東高校が海外に誇れることは何があるだろうか。そこで、自分たちの通っている松山東高校にゆかりのある人物について調べ、お互いに発表する。

No. 9

担当者	小笠原 遥奈
テーマ	鍵盤楽器に親しみ、地域の特色を音楽で表現しよう！
概要	<p>現在、親しまれているクラシック音楽の中には、地域の自然や産業、起こった出来事をよく表したものがあある。作曲家が、祖国への思いを曲に綴っているものも数多くある。また、時代によって、作曲技法にも違いが見られる。そこで、本講座では、楽典や音楽史についての基礎的な知識を学び、様々な地域、時代の楽曲を鑑賞した上で、自分の住む地域のある一部分（自然・産業・伝統文化・特産品等）について、様々な方向から考察し、音楽として表現する。</p> <p>この研究の流れは、以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 拍子、調、音階、時代区分等についての講義を聞き、基礎的な知識を身に付ける。</li> <li>2 24の調（ハ長調～ロ短調）について、スケール（音階）と有名なピアノ作品を動画で鑑賞し、調のイメージを言葉や色で表現する。また、その考えを他者と共有する。</li> <li>3 様々な地域の特色がよく描写されたピアノ作品を動画で鑑賞し、感想を共有する。</li> <li>4 4人前後のグループを作り、各グループで何を音楽で表現するかを決める。 （「●●について表現したいから、△△調を基にする」、「△△調の雰囲気が好きだから、調に合いそうな●●を表現する」どちらのアプローチでも構いません。）</li> <li>5 表現したい事柄について、実地、聞き取り、文献、インターネットなどの調査を行い、その特徴をよく捉える。</li> <li>6 曲として、8小節以上の大譜表で表し、演奏を発表する。</li> <li>7 ポスターに、講義で学んだこと、鑑賞で印象に残ったこと、表現する事柄の詳細、自作曲等についてまとめる。</li> </ol> <p>※ 鑑賞はピアノ作品で、作曲はト音記号とヘ音記号の大譜表を用いて行いますが、それでも構わなければ、鍵盤楽器の経験がない人、他楽器の持ち込み（音が大きすぎないもの）も歓迎します。鑑賞に、正解・不正解はないので、感じたことを気後れせずに発言してくれる人に受講してもらいたいです。</p>

No. 10

担当者	小野 榮子
テーマ	つくる責任つかう責任
概要	<p>地球温暖化による様々な問題が噴出している昨今の現状を踏まえ、どのような課題があるか、フィールドワークや調べ学習を通じて現状を把握し、家庭や地域、学校でできる対策を計画し実践しよう！</p> <p>資源の有効活用や廃棄物の発生防止、削減、再生利用など身近なところから考え、世界にも目線を向けていく。</p>

No. 11

担当者	神野和幸
テーマ	地域スポーツの持続可能な発展に向けて ～マドンナカップとひめっこビーチスクールの取り組みを通して～

概 要	<p>マドンナカップは正式名称「ビーチバレージャパン女子ジュニア選手権」として公益財団法人日本バレーボール協会・一般社団法人日本ビーチバレーボール連盟が主催となり、1997年の第1回開催より愛媛県(1～2回は松山市堀之内、3回からは伊予市五色姫海浜公園)で合計23回開催している地域との関りが大変深いスポーツイベントである。愛媛県出身のビーチバレーボールの選手にはオリンピック出場経験者も多く、現在も3名のオリンピ아가県内でビーチバレーボールに関係する様々な活動を行っている。中でも、幼稚園児から中学生までの幅広い子供たちにビーチバレーボールの楽しさを教えるとともに技術の指導を、一昨年度より「ひめっこビーチスクール」で行っている。</p> <p>このようなイベントや活動を通して、将来的に地域スポーツの持続可能な発展に向けてどのような役割があり、どのような課題があるのかを研究し、この研究を通してビーチバレーボールの発展だけでなく、地域の活性化や情報発信につなげることができるよう郷土愛を醸成し、地域と世界をつなげて考え、地域の人々と協働できるグローバルな人材になってもらいたい。</p> <p>研究計画(予定)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ビーチバレーボールの歴史</li> <li>2 マドンナカップの歴史</li> <li>3 ひめっこビーチスクールのフィールドワーク</li> <li>4 マドンナカップの開催地域(伊予市市役所)のフィールドワーク</li> <li>5 石手川ビーチバレーボールコートでのフィールドワーク</li> <li>6 地域スポーツの持続可能な発展に向けて</li> </ol>
-----	--

No. 12

担 当 者	白川 由貴
テ ー マ	地域におけるスポーツの役割と課題 ～頑張るスポーツ選手を応援！勝ち飯の考案！～
概 要	<p>「スポーツ」は社会において様々な役割を果たしている。人々の健康増進のみならず、地域・経済の活性化、学校教育等における人間力の向上や国際理解、部活動や地域スポーツにおける競技力の向上など、なくてはならない文化の一つである。</p> <p>現在、スポーツは多くの人に親しまれ行われている一方で、競技特有の疾患(スポーツ性贫血など)や怪我に悩む選手も多くいる。本研究では、そのような選手のコンディショニングを整え、競技に適した身体をつくり、競技力を向上させるためにどのような食事が適しているのか、スポーツ栄養学の観点から、深めていくことを目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 様々な競技の特性について調べる。</li> <li>2 競技ごとに、どのような怪我や疾患が多いか調べる。</li> <li>3 スポーツ栄養学についての知識を深める。</li> <li>4 競技ごとに、どのような食事が適しているか調べる。</li> <li>5 「勝ち飯」の献立を立て、実際に作ってみる。</li> <li>6 発表を行い、意見交換をする。</li> </ol>

No. 13

担 当 者	長谷川 公彦
テ ー マ	地域における文化ホールの役割と可能性 ～人と文化のグローバルな架け橋であるために～
概 要	<p>芸術文化や芸能を活発に発信し、多くの集客を得ることは、今や世界中のホールが抱える難題です。この課題について、愛媛県県民文化会館、松山市民会館、周辺市町ホール、坊っちゃん劇場、その他の民間ホールの取組を、フィールドワーク等により研究しながら、その認識を深めていきます。</p> <p>校内での研究は、国内外のホールに視野を広げ、ユニークな取組を調査したり、活用方法や運営方法、利用頻度の向上について提案し合ったりして、情報の共有と議論を進め、文化ホールのこれからの可能性を探っていきます。</p>

No. 14

担 当 者	阿部 秀信
テ ー マ	地域の宝 三輪田米山を知る ～地域文化の活用を目指して～

概 要	<p>三輪田米山は幕末～明治時代に生きた松山の神主である。豪快な性格で、地域の人々に請われ多くの幟や神社の注連石を書き、現在も松山市を中心に多くが残っている。独特の躍動感のある書は全国的に高く評価され、作品が各所に収蔵されており、高校書道の教科書にも掲載されている。</p> <p>これからの時代は地域にある資源を有効活用していくことが求められている。課題研究を通して、米山書の魅力について研究するとともに、書道の枠内にとどまらず、地域の文化資源として活用する方法を考えていく。</p>
-----	---

No. 15

担 当 者	秋山 奈津子
テ ー マ	～Model United Nations@Matsuyama Higashi High School～ 模擬国連を通して多角的に見る世界と日本と愛媛
概 要	<p>「模擬国連」はその名の通り、“国連を模擬する”ロールプレイ活動です。参加者一人一人（もしくはペア）が一国の大使として国益を背負ったそれぞれの立場から国際問題を議論し、交渉し、決議案や成果文書を作成します。その過程では、リサーチ力・交渉力・論理性・思考力・言語能力、そして協働する力が鍛えられます。2年前「武器移転」がテーマの全国大会に出場した生徒たちは、模擬国連の魅力についてこう述べています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加国の同意を得ることが最終目標の模擬国連には勝ち負けがない。そこでは聞く力、聞いた内容を咀嚼し、分析し、共通項や対立軸を見抜く力が必要だ。そして「正解」ではなく「納得解」を探し出す。正解のない実社会の問題に対して、自分たちなりの「納得解」を導くために遠慮のない議論をするという得難い場が模擬国連である。</li> <li>・日本は世界的に見ると平和で一般市民は「武器」というワードにほとんど関わりを持たずに生きている。「武器」に対する固定観念は、模擬国連に参加することがなければ、日本に住み続けている限り、気づかなかつたものかもしれない。模擬国連は、そのような固定観念の枠から出て、多角的な視点と立場で、国際問題、社会問題を学び、議論できる魅力的な場である。</li> </ul> <p>上記のような模擬国連の面白さを味わうには、各参加者がリサーチや交渉に本気で取り組む必要があります。世界で何が起きているのか、日本はどう関わっているのか知りたい・話したいという生徒に受講してもらいたいと思っています。</p> <p>初回のガイダンスで模擬国連のルールやリサーチの進め方について学んだ後、課題研究実施期間の前半は初心者向けのトピックやリサーチしやすい地域課題を取り上げ、後半は実際の国連議題を用いた本格的な会議の開催を目指します。</p> <p>日本で開かれる模擬国連の大会では多くの場合英語と日本語が公式言語ですが、課題研究では議論や交渉を深めるためにメインの使用言語は日本語とし、慣れてきたら進行や文書の作成、スピーチなど一部に英語を取り入れる予定です。</p>

No. 16

担 当 者	河合 直美
テ ー マ	「Kahoot!」を活用して愛媛の文化を世界に紹介しよう！
概 要	<p>ゲームベースの学習プラットフォーム「Kahoot!」を使用して、愛媛の歴史や伝統、自然、文化、流行などを英語で紹介するクイズの作成にチャレンジします。海外でも「Kahoot!」を活用した学習は、小学生から高校生までたいへん人気があります。自分の興味のある分野について楽しみながら理解を深め、英語での表現力を磨くとともに、日本内外の多くの人に愛媛の魅力を紹介する機会にできたらと考えています。クイズが完成したら講座の生徒やクラスメートと一緒にプレーし、事後にアンケートを実施し、改善点などを分析していきましょう。※機材の都合により講座の人数制限あり（20人まで）</p>

No. 17

担 当 者	野中 千愛
テ ー マ	伊予弁で愛媛を世界にアピールしよう！
概 要	<p>「机をかいて」「とりのご用紙」「かまんよ」「牛乳かやした」「ランドセルかるう」「お財布うさした」「ラーメンむつこいね」「なんしよん」</p> <p>これらはすべて愛媛で話される方言、「伊予弁」です。伊予弁ネイティブスピーカーのみなさんなら、理解できたのではないのでしょうか。</p> <p>では、日本語を学習する外国人には、私たちが使う伊予弁がどのように聞こえているのでしょうか。この講座では、愛媛に住む外国人にインタビューし、伊予弁にどんな印象を持っているか、伊</p>

	予弁での会話中に難しさを感じている点はどこかを調査します。そのインタビューを元に、愛媛に住む外国人に、また、これから愛媛にやってくる外国人に向けて英訳付きの伊予弁ガイドブックを作成しようと考えています。そして、伊予弁と英語の2言語を使い、愛媛の特産品や暮らし方を発信する取組を計画しています。課題研究を通して、言葉から私たちの住む地域について考え、地域の言葉を使って地元の魅力を世界に発信する活動を行います。
--	--

No. 18

担当者	瀬野 明
テーマ	いまだ知らない愛媛の魅力発見 ～英語版観光モデルコースの制作を通して～
概要	この講座では「英語版日帰り（もしくは1泊2日）観光モデルコース」の制作を行います。自分たちの地域について深く知ることで、日本人たちや、海外の人たちがまだ気が付いていない愛媛県の魅力について発見していきましょう。 また、海外の人々が自分たちの地域を訪れた際に、英語でその魅力を伝えられるかということにもチャレンジしていきましょう。

No. 19

担当者	檀 茂美
テーマ	愛媛に住んでいる外国人の視点から、愛媛県を再発見しよう
概要	みなさんは、愛媛県に住んでいる海外の人にとっては、愛媛県の魅力、また改善しなければならないところはどのようなところにあると思いますか？ まずは私達で海外の人から見た愛媛県の実態について予想して考えてみましょう。次に、愛媛県に住んでいる外国人住民や留学生に、直接会って話を聞いてみたり、アンケート調査を行ったりして、情報を集めましょう。最終的には、私たちの予測とアンケート結果とを比較し、愛媛県のどんな魅力を海外に向けてアピールしたらいいのか、また改善していけばいいのか、考えて発表できたらいいですね。

No. 20

担当者	越智 潤子
テーマ	愛媛県の食生活について考える。
概要	私たちの食生活は様々な課題を抱えています。どのような課題があるか整理し、課題解決につながる実践活動を通して考えます。また、地元食材を見直し、その活用について実践を通して考えます。 実践活動として実習を行うので、材料等の負担があります。また、実習を伴うので、定員を16名とします。



(5) 課題研究の成果

課題研究の成果として、研究結果をポスターにまとめた。以下が作成したポスター一覧である。  
(合計 116 枚、代表例は巻末に掲載)

ポスター番号	タイトル	発表者	担当教員
01-01	大江健三郎の人生を切り拓いた人々 大江健三郎年譜	藤岡愛結 澁谷美優 西莉乃愛	岡田先生
01-02	大江健三郎の人生を切り拓いた人々 ～伊丹十三～	野上琴未 藤川詩音	
01-03	大江健三郎の人生を切り拓いた人々 ～渡辺一夫～	藤岡愛結 澁谷美優 西莉乃愛	
01-04	大江健三郎の人生を切り拓いた人々 ～重藤文夫～	岡本大知 加藤大悟 野本景介	
02-01	日本語学習法を知ろう	土手康太郎	堤先生
02-02	やさしい日本語と見えない国際化	綱崎李紅	
02-03	愛媛を支える外国人	土井菜美	
02-04	日本と外国の常識やマナーの違いとは？	清家千尋 小泉海琴	
03-01	句集研究～過去の俳人の句集と僕の句集との比較を通して～	宇都宮駿介	櫛部先生
03-02	子規門下の双璧	金浦正宗	
03-03	子規が俳句に与えた影響	入船真人	
03-04	石田波郷の作風の変化について	田中千晴	
04-01	マッチシティ・マッチタウンイベントで観客を増やそう	三好光輝 松岡佑真 渡部啓斗	豊島先生
04-02	MCMTによる地域の経済発展	長尾青空 上島瑛惟人 岡部陽生	
04-03	幸せ貢献～愛媛FCと共に～	稲葉留美 田中来幸 新田理乃 河田志帆	
05-01	～過去から未来へ～今ある命を守り抜く	山口椋大 栢見玲也 渡部豪 田中唯月	村上先生
05-02	自分たちの町を守れ。	山内悠友 水野敦吏 森一生 濱野蒼太	
05-03	避難の極意	尾崎遙 谷川愛采 平井愛純 森脇早希	
05-04	避難展開～命を守る～	永木一朗 鶴本ゆいの 多田莉紗子 服部行志	
05-05	俺たちが考えた最強の防災バッグ	加地康平 稲垣隼平 馬越優太郎 澤田真啓	
05-06	校外で自分の命を守れますか？	伊賀上直紀 周防俊之介 船田理空 児玉大和	
05-07	いえのくふう	近藤大翔 岡本拓実 鈴木美空 二宮花鈴	
05-08	プロジェクトG～事前準備で減災～	荒川慧斗 大西凜征 小田琥太郎 影山翔	
06-01	私たちの未来は、私たちの一票から始まる	菅真乃裕 梅崎鈴歩 森亮輔	佐々木先生
06-02	え。なんで選挙行かんの？	坂本純聖 高瀬雄大	
06-03	Go To Election	山口葉央 鈴木陽菜 渡部紗羅	
06-04	シルバー民主主義をぶっ壊す!!	五十嵐翼 花山京平 中山佳都	
06-05	22%の民主政治	斎藤遊斗 武田悠生 田坂登志貴 坂東克海	
06-06	投票率における日本の現状とスウェーデンの比較	岡本一起 新谷彰悟	
06-07	若者の投票率を上げるには？	河本大空	
06-08	選挙は簡単な方がいいよね	丸山賢吾	
06-09	若者 アンド 政治。	宮宇地春人	
06-10	日本の投票率を上げるには？ ～投票率の高い国から学ぶ～	米田武志	
06-11	投票率を上げるために社会ができること	和田權	
06-12	選挙がしたいだけなのに	井口航晴	
06-13	主権者教育の実態・効果	芝明真	
07-01	10年後の大学の変化	三宅義之 兵頭遼馬 丸山歩夢	富田先生
07-02	未来予想図Ⅱ～少子高齢化と日本の大学の行方～	坂本龍之介 上野大輝 北地鼓太郎 鶴井風 山下大伍	
07-03	アフターコロナでの大学のあり方	林舞香 松浦遥	
07-04	大学生に聞くオンライン授業	池川正真 加藤陸 高橋理基 内藤大貴	
07-05	海外から見る日本の大学	池口翔太 加藤星五 上田雄太 熊野旭	
07-06	変わる日本の教育	天野安里 池田琉隼 重松伶汰 竹原啓太 三木昂輔 峯尾空 村上陸	

08-01	「普選の神様」今井嘉幸	一色拓海	
08-02	～私たちは秋山兄弟の生涯から何を学ぶべきか～	久野拓海 岩井慶樹 森實悠太	
08-03	作詞・作曲者からみる東校校歌の魅力	ウィジェナヤカサクラ 坂本しおり	渡部先生
08-04	正岡子規の歩み	和泉輝星 村上太一 笠原慶紀	
08-05	大江健三郎の生い立ちと知名度	松浦佑青 豊嶋大二郎	
08-06	伊丹十三の作品に込めた思い	野村晟一郎 立花涼哉 横内結音	
09-01	道後の街並みを音楽に出来るか？	首藤太喜 松田快斗 遠藤いぶき 窪田捺希 野本紫映瑠 松本結太	小笠原先生
09-02	瀬戸内の景色を音楽に乗せて	大西花乃 岡田華音 松岡結子 横田愛菜 渡部遥 武田風花	
09-03	松山城を奏でる	黒田青空 日高万歩路 上田凌大 村上暎 重松元 三好瑠斗 大塚美夢	
10-01	守りたい自然がある ～迫りくるプラスチックの脅威～	山本龍弥 武村知樹	
10-02	おいらは動物守りたい	大平千真 児島優日	
10-03	海洋汚染と海洋プラスチック処理の現状	高野匠翔 久保田真央	
10-04	大量生産大量消費のサイクルを断ち切る！	平松由衣 岡平倫拓 山内椋太	
10-05	コンビニオーナーと本部の関係が食品ロスの原因？	松本憲汰 大浦拓真	小野先生
10-06	マイクロプラスチックから美しい海を守るために	福本晴琉 越智春樹	
10-07	使い捨てプラスチックの問題と対策	越智万葉 鎌田琴子	
10-08	赤潮が愛媛の水産業に与える影響	大内こまち 宮崎明野	
10-09	循環型社会 ～プラスチック問題について～	菊池瞳子 城田美鈴	
11-01	愛媛でビーチバレーボールを普及するには？	武田溪 松澤遼 大森悠人 結城陸斗	
11-02	ビーチバレーボール VS バレーボール	林羽玖 宮本兼伸	
11-03	人々はなぜビーチバレーボールにハマるのか	吉川隆浩 森實将太 松岡玄 富永光昭	神野先生
11-04	ビーチバレーボールから学ぶ コロナ自粛の過ごし方	鷹尾真一郎 池田賢世 山内崇矢	
11-05	愛顔スポーツ ビーチバレーボール	伊藤夏希 笹田菜月 松本香鈴	
11-06	あなたと 愛媛と ビーチバレーボールと	魚見月絹 島彩心琉 池内結梨	
12-01	The best boxlunch for tennis practice in summer ～夏季練習時の食事～	大場隆也 中野颯亮 沼田泰喜 村上竜誠 毛利洸太	
12-02	女子ハンドボール部の試合後のスタミナ回復のための一食	日野瑠璃 高木理鼓 東浦日菜 林編妃菜 近藤千夏 蚊帳日沙希	
12-03	がんばらrowing meal！！ ～ボート競技をする高校生のための食事～	松下楓佳 中崎優美 山岡由蘭 川越乙嬉	
12-04	高校球児における食生活について	藤原蒼太 門田涼平 高岡幹 菊地流聖 戒能優弥	
12-05	勝ち飯～試合期における高校生女子バドミントン部の夕食の一考案～	高田あゆみ 長野美遥 鎌谷結衣 武田愛子	
13-01	我ら「文化ホールおたすけ隊」！	野馬光汰 窪田豊輝 白田蒼瑛 大音戸歌汰 大空拓海 遠藤優子 水野永莉菜 渡邊涼香 渡部未夕 永井沙耶	長谷川先生
14-01	型にはまらない、孤高の書道家三輪田米山	高村藍梨 西田裕香 明日孝允 泉百飛	
14-02	米山作品の魅力	岡田莉花 佐野光虹 成光ほのか 岡田啓佑	阿部先生
14-03	BEIZAN～東高から発信～	折手壮太 芥川壮太郎 齋宮萌翔 倉橋優月 岡本朔弥	
15-01	模擬国連～ブラジル大使になってみて～	植田美咲 影山夕里子	
15-02	模擬国連会議 気候変動に向けて 〈CANADA's perspective〉	大石将 武田もなみ	
15-03	Conectate al futuro ～模擬国連から始まる世界～	坂本美咲 玉井理帆	
15-04	模擬国連と国際社会におけるドイツの役割	山田颯馬 宮武宏徳	
15-05	アイスランド大使として国際問題に挑む！	小野下未来 藤岡佑哉	
15-06	Climate change through 模擬国連	吉岡日菜乃 名合真梨	
15-07	気候変動に関する模擬国連 キルギス	池田理子 笹田翔太	
15-08	Model UN ～マダガスカルと気候変動を考える～	日野鶴乃 上田彩久良	
15-09	マーシャル諸島大使になって	松本歩大 上岩そら	秋山先生
15-10	モンゴルとして参加した模擬国連で学んだこと	堀口大喜 安部紗世	
15-11	気候変動対策にどう取り組むか New Zealand	本田そよか 能田恭佑	
15-12	模擬国連 ～ナイジェリア大使になって～	伊藤万夏 西川結菜 仲田真菜	
15-13	模擬国連で身につけた交渉力	河野叶和 稲津秀一	
15-14	気候変動とサウジアラビア大使にできること	田中みのり 窪田有希	
15-15	模擬国連を通じた国際協力と今後の課題	福井秀崇 東達也	
15-16	模擬国連 ～沈みかけのツバルを救うために～	久野克海 藤本佳野	
15-17	Let's become the ambassador !	内村姫那 石本里奈	
15-18	模擬国連「世界の気候変動について学ぶ」 U.S.A	藤田彩愛 垂水 凜	
16-01	松山が誇るスイーツ	徳井拓也 西隅勇翔 佐藤一徹 笠井翔洋	
16-02	愛媛の方言教えるけん!!!	二宮勇太 徳永果威 平松祥	
16-03	「Kahoot!」での新たな学び	須佐美岳 石田遼太郎 常松佑希	河合先生
16-04	秋祭り in 愛媛 ～ワッショイ!! ワッショイ!!～	森朱凜 千石莉音	
16-05	Let's introduce Okaido with "Kahoot!"	立花なごみ 菊池ひより	

17-01	愛媛の知名度向上のために ～さよなら41～	杉本和歌菜 鶴久森りこ 磯野由依 岡本歩夏 日野里佳子	野中先生
17-02	伊予弁を使ってロマンチックな旅を!! Romantic Journey with Iyoben!!	庄野日菜 小坂萌恵 越智歩 香西萌々子	
17-03	伊予弁ジャー ～伊予弁で世界に愛媛をアピールしよう～	一宮早希 越智華奈 古手川明里 櫻本采 廣田愛琉 渡辺双葉	
17-04	愛媛の未来作ってこ!!	谷脇麻音斗 今井良輔 岸本丈太郎 永木土道 三好伶弥	瀬野先生
18-01	Hideaway ～松山の知られざる魅力を掘り起こそう～	横山紗音 樽井祐奈 重松亜実 山中江里子 岡田玲奈	
18-02	和×道後 ～外国人に提案する愛媛の魅力～	沖野楓果 池内ひより 河田琳音 越智亮太	
18-03	塩でリフレッシュしよー!	久保一路 武方優奈 小野下美由紀 菅七香 松岡厚道	
18-04	路面de食巡りせん? ～Matsuyamaの魅力を大発信～	上神伽奈 岡田逸誠 勝部愛澄 岡田拓真 山地咲楽	
18-05	パン王国愛媛へようこそ	田村明莉 平松花穂 越智天音 山中元太郎 窪中瑞希	檀先生
19-01	愛媛の観光について考える	金柿実日子 亀田美穂 小野真悠子 末光史佳	
19-02	松山と外国人と観光と	齋藤堇 雪永未来 上野裕翔 西田拓馬 小田陽太	
19-03	How can we increase the number of international tourists?	笹岡佳穂 谷岡沙恵 石橋審平 重見萌絵 越智勇満	
19-04	愛媛インバウンド事情～いい、加減～	一色俊寛 永見颯真 佐野光 垣鏝ころも	越智先生
20-01	これであなたも愛媛人!!	田中宏汰 得居優大 野浪正歩也 西谷央輔	
20-02	家で作れる地産地消スイーツ	菅野颯太 野中玲那 持主楓可 城戸快斗	
20-03	愛媛の果物消費増加のために	石川遥登 松友野乃佳 久井響介 小倉才和	
20-04	60分で作る郷土料理	西本太一 松井望 大塚祐希 廣瀬加奈	
20-05	愛媛県の欠食率の低下	近藤里南 大西零 岩崎凌空 豊島涼久	

#### 4 内容言語統合型学習 (East CLIL) 【坊っちゃんタイム】

##### (1) 主旨

英語以外の教科を英語で取り組むことにより、語学力向上と異文化理解の深化をめざし、同時に思考力・判断力・表現力・分析力の育成にもつなげる。

##### (2) 授業の流れ

授業は毎学期ごとに定めた科目にあわせて、その指定教科の担当教員と英語科教員と外国語指導助手 (Assistant Language Teacher、以下ALT) が協力して行う。2時間でひとつの授業とし、各時間の実施内容は下記の通りである。

1時間目 (英語担当教員・ALT)	2時間目 (教科担当教員・ALT)
<ul style="list-style-type: none"> <li>学習内容についてのオーラルイントロダクション</li> <li>言語活動をしながら、本時の単語の理解</li> <li>本時の教材の内容理解</li> <li>内容理解のチェックと言語活動 (次時までの課題のサポート)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時の学習内容の復習</li> <li>課題をグループで発表 (聞き手は評価用紙を用いて、発表者のプレゼンのよいところを研究する)</li> <li>実験もしくはグループワーク</li> <li>教科担当教員による補足・ALTによる評価</li> <li>自己評価</li> </ul>

##### (3) 実施内容

	科目	テーマ
1学期	East CLIL Modern Sociology	Economy and Innovation of Technology
	East CLIL Home Science	Food and Health
2学期	East CLIL Japanese	English Haiku
	East CLIL Chemistry	Acid-Base Neutralization Titration
3学期	East CLIL Mathematics	Polygons
	East CLIL Health Science	Virus

##### (4) 評価

- 生徒たちは学期に一度のEast CLILの時間を大変楽しみにしており、意欲的に取り組んでいる。
- 生徒個々のパワーポイント等を利用して行うプレゼンテーション技能が高まっている。
- 生徒の英語に対する興味・関心が高まり、積極的に英語を使用する態度が養われつつある。
- 当該教科担任も英語を用いることで、生徒の学習意欲を喚起している。
- ALTは他教科の教師との関わりが増え、全教職員とのコミュニケーションが図ることができる。
- 学校全体で取り組む活動として定着している。



## II 2年生の取組（本年度対象：80人（GLコース選択生））

以下のような内容で実施。

	内容	カリキュラム名	回数 etc.	日付・期間	人数
1	課題研究	G明教Ⅲ	22回	4/16～3/18	対象者
2	海外FW代替交流	G明教Ⅲ	1回	12/14	選抜
3	East CLIL	坊ちゃんタイム	6授業	通年	対象者
4	保健講座	G明教Ⅲ	3授業	通年	対象者
5	講演	G明教Ⅲ	1回	11/2	対象者

### 1 課題研究【G明教Ⅲ】

#### (1) 主旨

生徒の好奇心を刺激するような、幅広いテーマ群についての協働的研究活動を行うことで、地域と世界の持続可能な社会に貢献する意欲と深い教養や問題解決力・コミュニケーション能力等の国際的素養の育成を図る。

#### (2) 概要

以下の講師（13人）をお招きして、課題研究（24回）を実施。12月の1・2年生中間報告会でポスター発表を行い、3月には研究成果発表会にてシンポジウムを開催し発表した。

#### (3) 課題研究の講師一覧

No	氏名	所属	課題研究テーマ
1	岡本 威明	愛媛大学教育学部	食品の機能性と安全性の評価および調理加工に関する研究
2	竹下 浩子	愛媛大学教育学部	SDGs で社会を変える
3	野澤 一博	愛媛大学社会共創学部	人口減少下における持続可能な地域経済について考える
4	松浦 真也	愛媛大学理学部	北欧と日本の比較分析
5	松浦 一雄	愛媛大学工学部理工学研究科	光を分けて、世界を見よう！
6	井門 俊	愛媛大学工学部理工学研究科	国内外における最先端のVRおよびAI技術
7	羽藤 堅治	愛媛大学大学院農学研究科	食料生産におけるスマート化農業に関する研究
8	小林 修	愛媛大学国際連携推進機構 アジア・アフリカ交流センター	Beyond SDGs 2030 - SDGs から見た世界各国の今と、2030年以降の私たちの暮らし

9	中山 晃	愛媛大学教育・学生支援機構 英語教育センター	地域観光英語：地元の観光地を学び、英語で案内・紹介してみよう！
10	Jonathan Jackson	松山大学講師	Multi-culturalism in Japan
11	芝 大輔	松山市総合政策部危機管理課	松山市の「全世代型の防災教育」事業の企画立案や教育プログラム作り、教育の実践に参画して、皆さんの手で松山のまちづくり・ひとづくりを進めよう！
12	長友 太郎	愛媛県立中央病院新生児内科	赤ちゃん、子ども、母、地域。2020-2021
13	梶原 春菜	元京都大学法学研究科助教	プラスチックごみ問題を考える

(4) 各講師の研究内容（希望調査時の講師から生徒への説明内容）

No. 1

担当者	愛媛大学教育学部 岡本 威明(おかもと たけあき)
テーマ	食品の機能性と安全性の評価および調理加工に関する研究
概要	<p>本講座では、以下の3つの分野を中心として課題研究に取り組んでいきたい。</p> <p>① 食品（飲料も含む）の機能性評価に関しては、生化学・免疫学的手法ならびに動物実験（マウス）等を用いて実験科学的に探究していく。</p> <p>② 食品の安全性評価に関しては、一般細菌ならびに食中毒菌培養寒天培地を用いて検討していく。</p> <p>③ 食品の調理加工研究に関しては、実際に調理を実践しながら、食品中の栄養成分、物性、色調、味覚等の変化を科学的に解明していくとともに、松山市内の飲食店等で販売可能な新規食品（飲料も含む）の開発も視野に入れて検討する。</p> <p>〈過去のテーマ例：一部抜粋〉</p> <p>【A】 柑橘未利用資源による抗アレルギー効果の解明 【B】 シークワサー葉パウダー等を用いた新規健康食品の開発 【C】 フードスタンプ等を用いた食品衛生に関する実験構築と実践</p>

No. 2

担当者	愛媛大学教育学部 竹下 浩子(たけした ひろこ)
テーマ	SDGs で社会を変える
概要	<p>2015年9月に国連サミットで「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されて以来、SDGsの認知度はますます高まっています。朝日新聞の最新調査では、SDGsの認知度は27%に上昇しています。また、電通の調査によると、都道府県別のSDGs認知度は、愛媛県は第3位(21%)と高く、愛媛県の人々のSDGsに対する関心の高さが伺えます。</p> <p>そこで、様々な世代の人にSDGsについての関心をさらに高めることを目標として、その方法を考え、実際に行動に移すことで、高校生として社会に参画してほしいと思います。SDGsについて関心を持ってもらう方法の例として、プロモーションビデオを作成する、SDGsゲーム等を開発する、地域のイベントにブースを出すなどが挙げられます。</p> <p>これからの方法について、計画、実践、評価・検証を行い、持続可能な社会の構築に主体的に関わってほしいです。</p>

No. 3

担当者	愛媛大学社会共創学部 野澤 一博(のざわ かずひろ)
テーマ	人口減少下における持続可能な地域経済について考える
概要	<p>人口の減少にともない、空き家や休耕地の増加、商店街のシャッター通り化、地域消費の停滞、財政の逼迫など地域は様々な課題を抱えています。地域の課題は種々ありますが、本講座では経済的な視点から地域の課題について考えていきます。まず、グループまたは個人の各々の関心をもとに地域の課題を抽出し、研究テーマを設定するところからはじめます。その後、各自の研究テーマに沿って文献やインターネットで情報を集めると同時に、県や政府の各種統計データをもとに分析を行っていきます。場合によっては行政や関係者へのヒアリング調査やアンケート調査を行えたらと考えております。そして、得られた研究結果から考察を行い、課題に関する改善案や地域活性化案などを検討していきます。</p>

No. 4

担当者	愛媛大学理学部 松浦 真也 (まつうら まさや)
テーマ	北欧と日本の比較分析
概要	<p>最近、日本でも福祉、環境保全、男女共同参画、教育などの観点から、北欧についての関心が高まってきています。その一方で、まだまだ「馴染み深い地域」とまではいっていない気がします。</p> <p>この課題研究では、スウェーデンを中心に、北欧諸国と日本とを客観的に比較することで、北欧に対する理解を深めるとともに、日本社会の未来について考えます。具体的に、どんなテーマ、切り口から北欧と日本の比較を行うかは、受講者の皆さんの興味をもとに決めたいと思います。</p> <p>なお、あまり知られていないかもしれませんが、スウェーデンは 1749 年以来、継続的に人口調査を実施するなど、世界有数の「統計大国」です。その上、情報公開も進んでいますので、スウェーデンについての客観的なデータや情報は、インターネットを通じて入手可能です。加えて、北欧と関わりのある様々な立場の方々にも、協力をお願いしたいと思います。</p>

No. 5

担当者	愛媛大学理工学研究科生産環境工学専攻 松浦 一雄 (まつうら かずお)
テーマ	光を分けて、世界を見よう！
概要	<p>青空や海の輝きにもあるように、光の波長ごとの成分や強さを調べることで、遠くにある物質の存在や性質を調べることが出来る。分光法の基礎を学習・体験した後、光が空間を進む際の強度変化について計算する方法を学ぶ。学んだ方法をグローバルな問題に適用し、その解決策について考える。具体的には以下のように進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 分光法の基礎 放出される光や吸収される光を波長ごとに分けることで、様々な物質の存在や内部の状態を調べることができる。原理を学んだ後、簡易分光器を設計・手作りし、分光を体験する。</li> <li>2. 輻射輸送方程式 多くの場合、光(電磁場の一種)は、必ずしも真空中でない、吸収・発光・散乱のある媒体中を進む。その際の、光の強度の変化を計算する方法について学ぶ。</li> <li>3. 身近な地域課題に対する分光法の応用 学んだ方法論に基づいてグローバルな問題を考え、その解決策を探る。</li> </ol>

No. 6

担当者	愛媛大学理工学研究科 井門 俊 (いど しゅん)
テーマ	国内外における最先端の VR および AI 技術
概要	<p>近年の飛躍的な計算機能力の向上に伴い、次世代のデジタル技術が急速な勢いで発展している。なかでも、バーチャルリアリティ (VR) や人工知能 (AI) などは、現実社会への影響の大きさから、今後、特に注目すべき最新技術であるといえる。</p> <p>本課題研究では、特に、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(A) VR の基礎と産業応用</li> <li>(B) 拡張現実 (AR)</li> <li>(C) コンピュータグラフィックス (CG)</li> <li>(D) AI と画像処理</li> <li>(E) AI と自然言語処理</li> </ul> <p>などの各技術分野について、最先端技術やその応用等を調査研究する。</p>

No. 7

担当者	愛媛大学大学院農学研究科 羽藤 堅治 (はとう けんじ)
テーマ	食料生産におけるスマート化農業に関する研究
概要	<p>Society5.0 を食料生産分野で実現するためのスマート農業について研究を行う。最先端の食料生産について、データサイエンスに基づく IoT 利用、ビッグデータ、人工知能などについて実験研究を行う。</p> <p>特に植物や環境のデータ収集においては、ドローンや熱画像などの市販の計測装置の利用と、自分たちでラズベリーパイを用いて作成する環境や植物のデータ計測装置などを用いて実践的な研究に挑戦させる。</p>

No. 8

担当者	愛媛大学国際連携推進機構 小林 修 (こばやし おさむ)
テーマ	Beyond SDGs 2030 - SDGs から見た世界各国の今と、2030 年以降の私たちの暮らし
概要	<p>国連加盟国を中心に 2030 年までの達成を目指す世界共通のグローバル目標 SDGs (Sustainable Development Goals)。本課題研究では、世界各国の持続可能性の現状について、SDGs 達成度指数、人間開発指数、エコロジカル・プリントなどの指標を調査研究することから探る。調査を通じて、2030 年以降の暮らしに関して、持続可能性が最も低くなるシナリオ、最も高くなるシナリオ、そしてその中間シナリオを描くことを試みる。その上で、世界がより持続可能となるために、今私たち自身にできること、すべきことについて提案する。</p> <p>この課題研究を通じて、以下の力を身につけることをめざす。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. SDGs のターゲットと評価指標について説明できるようになる。</li> <li>2. 世界各国の持続可能性を評価する指標を 3 つ以上説明できるようになる。</li> <li>3. SDGs の達成に貢献する人になるために必要な高校での学びについて、具体的な目標を立てられるようになる。</li> <li>4. 高校卒業後の進路と自らの将来の暮らしについてビジョンを描き、説明できるようになる。</li> </ol>

№. 9

担当者	愛媛大学教育・学生支援機構英語教育センター 中山 晃 (なかやま あきら)
テーマ	地域観光英語：地元の観光地を学び、英語で案内・紹介してみよう！
概要	<p>「インバウンド」というキーワードの下、外国からの観光客の方々をおもてなしする様々な取り組みが、愛媛県内の各観光地で盛んにおこなわれています。</p> <p>この課題研究では、単に地元の観光地についての英語表現を学ぶだけでなく、外国人観光客をおもてなしする際の様々な課題について調査し、また、外国人に対して、英語でガイドを行うことの意義やその在り方についても検討します。</p> <p>これら一連の学びを通して、地元・松山の地域社会が抱える観光に関する課題を、自分自身の課題として認識し、高校生の視点で、その解決にどのように貢献できるか探究することを目的とします。</p> <p><b>【予定している内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・松山城についての英語でのプレゼンテーション</li> <li>・道後温泉周辺についての英語でのプレゼンテーション</li> <li>・松山市内の観光資源についての英語のクイズ作成</li> <li>・オーバーツーリズム等の観光公害に対する取り組みについての調査</li> <li>・(日程が合う場合のみ) 大型客船寄港に伴う英語でのボランティアガイド</li> </ul>

№. 10

担当者	<p>Belongs to: Lecturer at Matsuyama University Name: Jonathan Jackson</p> <p>Jonathan Jackson is from Leicester in the UK, where he worked originally as a music teacher. He later trained to teach English before coming to Japan in 2010. His first job was in an conversation school in Matsuyama and he went on to teach in an English-only pre-school and a few more conversation schools in the city. Since 2014 he has been teaching English at Matsuyama University.</p>
テーマ	Multi-culturalism in Japan



担当者	愛媛県立中央病院新生児内科 長友 太郎 (ながとも たろう)
テーマ	赤ちゃん、子ども、母、地域。2020-2021
概要	本講座では、赤ちゃんが生まれ育つ地域社会について、周産期(赤ちゃんが生まれる前後の時期)の医療の観点から学んでいきます。実際にいろいろな場所に足を運んで赤ちゃん、子ども、家族と会い、その経験をモチベーションとしてこれからの世代が解決していくべき社会課題について一緒に考えていきます。研究テーマの例を挙げると、子育て世代包括支援、周産期メンタルヘルス、母乳育児支援、出生前診断、遺伝性疾患、先天異常、医療的ケア児、療育、がん・生殖医療、胎児の栄養、里親制度、周産期医療ネットワークなど、ひとりひとりが興味のあるテーマを選び、それに対して自分たちの足元から何ができるか、何をすべきなのか、について考えます。皆で積極的に議論しアイデアを出し合いながら楽しく有意義な時間を過ごしましょう。

No. 13

担当者	元京都大学大学院法学研究科助教 梶原 春菜 (かじわら はるな)
テーマ	プラスチックごみ問題を考える
概要	<p>本課題研究では、プラスチックごみ問題の原因や経緯を調べ、解決策を探ります。</p> <p>前半はグローバルな視点から、後半は地域(ローカル)の視点からプラスチックごみ問題を考えます。</p> <p>前半は、プラスチックごみを手掛かりに、「利害の対立をどのように調整するか」という問題を様々な側面から考えてみたいと思います。環境問題には、世代間の対立、南北間の対立(発展途上国と先進国)など、様々な利害の衝突が見られます。例えば、将来世代に良好な環境を残すことは重要な課題ですが、現在快適さを享受する私たちは将来世代のために、自分たちの利益をどの程度犠牲にする用意があるのでしょうか?また、日本をはじめ先進諸国は雑多なプラスチックごみを東南アジアなどの発展途上諸国に輸出し処理してもらっていますが、近年これらの諸国がごみの引き受けを拒否する事態が生じています。先進国のリサイクルを支えるために発展途上国に負担を強いるやり方は限界に来ているのです。その一方で、アメリカは世界最大の使い捨てプラスチックの排出国ですが、問題の解決に消極的です。どうしたらアメリカを問題の解決に関与するよう促すことが出来るのでしょうか?国家や個人の博愛主義的な行動に頼らず、国家や個人は自己の利益を追求する利己的なものであることを前提として、どうすれば問題の解決が可能なのかを皆で考えます。具体的には模擬会議などの形式を利用することを考えています。講師は国際関係論などの知見や過去の事例についてレクチャーを行い、問題を理解するツールを提供します。</p> <p>後半は、愛媛県におけるプラスチック問題の解決を自分たちの関心のある側面から考えてもらいます。今年度(2019年度)の1年生の課題研究で、同じタイトルでその現状や解決策について様々な側面から考える研究を行っていますが、次年度の本研究では、日本や愛媛県の特性を生かした問題解決を考えてもらいます。日本のプラスチックごみ問題にはこれまでの歴史的経緯や制度的な問題が存在します。日本でプラスチックバッグの規制が遅れている背景にはどのような要因があるのでしょうか?また日本では他の先進諸国に比べて若者の環境運動が盛り上がらないとの指摘がなされますが、仮にそれが事実であるとして、デモ運動による政策形成への影響という形以外に、プラスチックごみ問題の解決を進める方法はないのでしょうか?受講者には文献を調べるほか、関係機関に話を聞きに行き、(可能であれば)具体的な解決方法を考えてもらいます。柔軟な発想による主体的な取り組みを期待しています。</p>

(5) 課題研究の中間発表

課題研究の中間発表として、研究結果を生徒各自で(あるいはグループごとに)ポスターにまとめた。以下がその作成したポスター一覧である。(57枚)発表の詳細は『IV. 成果の普及』の「1 1・2年生合同中間報告会」にて記載。

	番号	タイトル	発表者	講師
1	01-01	骨を作る骨芽細胞の伸展に及ぼすビタミンの影響	城戸椿	岡本
2	01-02	抗アレルギー効果をもつ食品成分の探索	大西歩 永田 和子	岡本
3	01-03	黒くなる果物、ならない果物、なる部分、ならない部分	菅七海	岡本
4	01-04	食品の調理加工研究と地域活性化への取組	安藤菜穂 池田光希 菊池光 林奈々子	岡本
5	02-01	広めよう SDGs By movies	神野小雷 竹田彩 加藤彰悟 玉井健登 河津遥架 福田雛乃 乃万智美 芳野亜美	竹下
6	03-01	若年層の進学・就職に伴う人口流出	隅田真央	野澤
7	03-02	久万商店街から見る地域活性化への道	小倉欽大	野澤
8	03-03	四国新幹線は地域を救うのか～四国新幹線開通後の未来を視る～	柚山道明	野澤
9	03-04	おかえり。伊予市の移住。	檜垣京吾	野澤
10	03-05	地域おこし協力隊事業の有用性に関する研究	野村隆志	野澤
11	04-01	北欧のスポーツ モルック	丸山真司	松浦真
12	04-02	スウェーデンと日本 コンシューマーの意識	楠田梓乃	松浦真
13	04-03	北欧家具と日本	石川太一	松浦真
14	04-04	北欧の教育から日本に生かせること	大西真由	松浦真
15	04-05	北欧と日本の架け橋に	菅原菜々美	松浦真
16	04-06	スウェーデンの街から学ぶ 人々とアートの深いつながり	平美奈	松浦真
17	04-07	北欧・東南アジア・日本の働き方の比較	月岡菜々	松浦真
18	04-08	印象語から分析する北欧デザイン	井上美咲	松浦真
19	05-01	光と糖度	橋村瑞希	松浦一
20	06-01	リアルで緊張感のある避難訓練へ ～複合現実(MR)の活用～	井出麻友	井門
21	06-02	VRがアーティストに革命を起こす！？ ～芸術を「体験する」時代へ～	山下あすか	井門
22	06-03	ディズニーの魔法のかけ方 ～XRを使って～	吉村萌夏	井門
23	06-04	神の手を借りたい医療現場に革命を！ ～VR・AR・MRの多角的な活用法～	大野竣平	井門
24	06-05	VRが生み出す『ポケモンとの触れ合い』	谷口洸	井門
25	06-06	まるでSF！VR・3Dホログラムでめざす格差レス社会	樽茶大生	井門
26	06-07	AIとVRによる絵画の楽しみ方 ～絵画の世界に入り込もう～	新田佑次郎	井門
27	07-01	生長したい植物vs. 成長阻害剤	山口絵里奈 石崎芽唯 楠田和可	羽藤
28	08-01	私たちは地球を増やすことはできない	伊賀上陽音	小林修
29	08-02	性差別と貧困の関係	篠崎紀華	小林修
30	08-03	ジェンダー平等=Well-being?	杉野若葉	小林修
31	08-04	幸せにあり方～クリーンなエネルギーを皆に～	大谷安奈	小林修
32	08-05	NO HUNGERの実現を目指して	高須芽依	小林修
33	08-06	豊かな国の貧しい心～ノルウェー、日本、南スーダンから考える～	井上藍	小林修
34	08-07	EQUALな世界にするためには	野上朔佳	小林修
35	08-08	国の治安が命を決める・・・？	矢野菜子	小林修
36	09-01	愛媛で女子旅してみんけん!!	明比かさね 川吾奈々子 竹縄あゆみ 三原心春	中山
37	09-02	School Trip	進藤ひより 玉井志歩 藤田沙羅 松本まどか	中山
38	10-01	Are you discriminating or just making a distinction?	松岡美響	Jonathan
39	10-02	Do Japanese students hold stereotypical views about the Chinese?	坪内琴乃	Jonathan
40	10-03	How can Japan support the lives of immigrants?	渡邊麻梨亜	Jonathan
41	10-04	Language and the Way You Think	池内優葉	Jonathan

	番号	タイトル	発表者	講師
42	11-01	未知の災害からの脱出～真実を見破らないと、死ぬ～	蒲池純奈 竹ノ内悠	芝
43	11-02	あ、そうだ、、、サバ缶買おう。	末富りっか 中川優依	芝
44	11-03	鬼滅の刃から防災・意識改革	三浦ほのか 山口真那	芝
45	12-01	里親制度+子どもの最善の利益	木下輝来	長友
46	12-02	周産期と生命倫理	仙波佑一朗	長友
47	12-03	1/1000を救いたい。日本の医療	小笠原朋夏	長友
48	12-04	未来の子どもたちのために～里親改革 in the world～	楠本菜央	長友
49	12-05	20.5%	濱田和花 河端愛海	長友
50	12-06	出産=幸せ?～本当に幸せな周産期を考える～	堀江杏	長友
51	12-07	出生前診断とダウン症の子どもたち	松井彩夏	長友
52	12-08	赤ちゃんの為の最善の決断	村上佳穂	長友
53	12-09	着床前診断の未来～towards the future～	村上由羽	長友
54	12-10	障がいとその支援～障がいへの理解が深まる社会を目指して～	山名里沙	長友
55	12-11	打たせてほしかったワクチン	渡部愛生	長友
56	13-01	脱プラの広がりとは可能か?～企業からみる包装プラスチックの現状～	谷本遼汰	梶原
57	13-02	「プラスチック」循環型社会をつくる	松下卓央	梶原

#### (6) 課題研究の成果

3月の研究成果発表会では、課題研究の成果をふまえて、シンポジウム形式での発表・議論を行った。議事録は『IV. 成果の普及』の「3 令和2年度研究成果発表会」に記載。

## 2 海外フィールドワーク代替交流【G明教Ⅲ】

### (1) 主旨

課題研究の充実を目的として、フィールドワークを実施し、滞在先で研究経過の発表や意見交換を行う。同時にフィールドワーク先の現地大学・高校との交流学习を行い、英語での本校・愛媛・日本の紹介や成果発表プレゼンテーション、ディスカッションを行い、高度な語学力・コミュニケーション能力、思考力・判断力・表現力・分析力の育成を図る。

### (2) 実施内容

年度当初は、8月3日(月)～8月7日(金)の4泊5日でフィリピンを訪問する計画であったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、10月19日(月)～10月23日(金)に変更し、生徒に参加希望をとり選考の結果8名の参加を決定した。しかし、海外渡航中止勧告が継続していたために、オンラインでの交流に変更して実施した。

実施日	相手国	生徒数	交流先
12月14日(月)	フィリピン	8	フィリピン大学附属高校

#### 交流内容

- 09:10～09:20 Getting to know you activity (Philippine students prepare an activity that Matsuyama Higashi High School and UPIS students could enjoy)
- 09:20～09:30 Presentation of school and culture of Matsuyama Higashi High School
- 09:30～09:40 Question and answer
- 09:40～09:50 Presentation of school and culture of UP Integrated School
- 09:50～10:00 Question and answer
- 10:00～10:10 Free time for more interaction

#### 生徒感想:

- ・本当は現地に実際に行ってフィールドワークをしたかったのですが、フィールドワークに変わる交流会に参加できたことをまず感謝したいです。交流会は1時間ほどでとても短かったのですが、フィリピンの文化や学校生活などをたくさん知ることができました。今回、改めて英語の大切さを実感しました。ところどころ聞き取れなかったときもあり、普段の英語の授業をより大切にしようと思いました。また、自分から積極的にネイティブと話すチャンスを見逃さず、行動していきたいです。私が日本にいて調べて分かることは

とても限られていると思います。なのでやはり現地に行ったり、オンラインでも現地の人と話すことが重要だと感じました。自宅から参加していたフィリピンの学生の様子から、コロナの現状も実感しました。コロナが収まれば、必ずフィリピンに行きたいです。

- 今回の交流は当初思っていた形とは全然違い、オンラインになってしまったけど、とても貴重な経験ができました。フィリピンについての説明を、いろいろな内容で多くのことを紹介していただきすごく楽しかったし、フィリピンの楽しそうで魅力にあふれた素敵などころをたくさん発見することができました。また、日本のことについても軽くではあったけどしっかり紹介できたので良かったです。一方で、自分の英語力の低さであったり、消極的な部分を多く感じました。思っていることがあってもそれを英語にして表すことができないからそれによって積極性もなくなってしまうように感じます。また、画面越しになると実際に会って会話をするより引いてしまうところがありました。もっと、英語に触れる機会を増やして、楽しくたくさん交流ができるようになりたいと強く思いました。前々からずっとフィリピンに行きたいという思いが強かったので、今回行けなかったのは残念ですが、必ず行きたいと思います。
- オンライン交流を終えて、今までよりフィリピンに親しみや興味を持つようになりました。UPIS の生徒は全員きれいな英語の発音でした。教えてもらったタガログ語を使って話せる機会がまたあったら良いなと思いました。また、若者のトレンドの話をしたときに、日本の『鬼滅の刃』やアーティストの LISA さんがフィリピンでも流行っていると知って驚きました。今年は、実際に現地に行くことはできなかったけれど、コロナ情勢が落ち着いて安心して海外に行けるようになったら訪れてみたいです。
- フィリピンの生徒さんはみんな活発で明るく積極的であるということがパソコン越しでも伝わってきました。英語という同じ言語を使っているけど、その言語を使う姿勢や態度によって、コミュニケーションのあり方が変わってくるのが分かりました。私は引っ込み思案で、頭の中ですごく考えてからしか発言することができないので、この姿勢を見習っていきたいです。また、フィリピンの高校の様子について説明してもらったことで、日本との価値観の違いや文化の違いを等身大の目線から知ることができました。私は、英語を話すことに苦手意識がありました。しかし、この交流を終えて、英語を前向きな気持ちで使えるようになりたいと思えました。
- UPIS との交流はすごく緊張したけどすごく楽しかったです。私は、英語を話すことに全く自信がありませんでした。でも、今回の交流を経験して、上手に話せなくても、一生懸命伝えようとして話せば何とか伝わって楽しく話することができることを学びました。英語を話すことに対して少し自信ができました。でも、フィリピンのみんなはすごく英語が上手で私たち日本人ももっと頑張らないといけないと感じました。フィリピンのプレゼンを見て、フィリピンの料理をすごく食べてみたいです。私が今回の交流で思ったことは、フィリピンの人のプレゼン力の高さです。スライドもすごいし、話し方も上手で、楽しそうにしている、人を引きつけられるプレゼンだったと思って感心しました。自分は堂々とできないときがあるので、自分もできるように努力していきたいです。
- 最初に思ったことは、タガログ語が難しいなと思いました。日本語とも英語とも違う文法の言語の習得はとても難しそうで、興味深いです。今後も交流を続けて、タガログ語の勉強もしていきたいです。



### 3 内容言語統合型学習 (E a s t CLIL) 【坊っちゃんタイム】

#### (1) 主旨

様々なテーマについて英語で学ぶことにより、語学力の向上をめざし、同時に、思考力・判断力・表現力・分析力の育成にもつなげる。

#### (2) 授業の流れ

オンライン英会話を利用し、レッスンで取り上げる内容にあわせて、チューターとフリートークができるように関連事項の充実を図る。また、取り上げた内容やキーワードを英語で説明できるようにし、さらにその内容についてショートエッセイを書き、振り返りとする。2時間でひとつとし、各時間の実施内容は下記の通りである。

1 時間目 (英語担当教員)	2 時間目 (英語担当教員)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ レッスン内容についての単語の理解</li> <li>・ 教材の内容理解</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ フィリピン人チューターとのオンラインレッスン</li> <li>・ レッソンのテーマに関するエッセイを書く</li> <li>・ 自己評価</li> </ul>

(3) 実施内容

	科目	テーマ
1 学期	East CLIL on the Global Issues	How to make Japanese Dish
2 学期	East CLIL on the Global Issues	Science / Poverty/ Education / Hunger / Welfare Technology / Culture / History / Women' s right
3 学期	East CLIL on the Global Issues	Medical care / Water and Sanitation / Working Environmental problem / Energy / Business

(4) 評価

- ・ ネイティブスピーカーと個別に話をしたことがない3割の生徒にとっては初めての体験ができた。
- ・ SDGs に関わる内容を英語で話すことで語彙力の強化につながった。
- ・ 英語力の向上につながったと感じる生徒が圧倒的に多数となった。特に自分の意見を述べる力・および相手の意見や質問を聞き取る力が付いたと感じる生徒が多かった。
- ・ 回数を重ねるごとに英語を「聞く」ことへの耐性が付いてきたと感じる生徒が増えた。
- ・ 音読などのスピーキングに取り組む学習時間が増えたと感じる生徒が増加した。



#### 4 保健講座

(1) 主旨

海外に渡航する際に事前に知っておくべきこと、現地で病気になるために必要なこと、もしも病気になってしまった場合の対処方法、帰国後に注意すべきこと等を学ぶことで、海外で健康を維持し、安全に有意義な活動ができるようにするためのスキルを身に付ける。また、グローバルな人材として活躍するために必要な感染症に関する知識やその対策について学び、国内、海外を問わず健康を維持し、安全に有意義な活動ができるようにするためのスキルを身に付ける

(2) 実施内容

以下の2講座を外部講師に依頼し実施した。また、残り1回を本校保健体育科の教員が担当し実施した。

実施日	講演内容	講師
6月15日(月)	海外研修・留学のための危機管理	愛媛大学国際連携推進機構 国際教育支援センター 准教授 高橋 志野 氏
10月19日(月)	グローバルに考える感染症のはなし	松山市保健所 医師 中村 清司 氏 保健師 宇都宮彩子 氏

①「海外研修・留学のための危機管理」

講師：愛媛大学国際連携推進機構国際教育支援センター 高橋 志野 准教授

場所：本校 地歴公民教室・化学講義室・化学実験室

概要：安全で安心な海外派遣・留学のためには、日本人の危機意識の低さを認識する必要がある。考えられるリスクとしては、窃盗・強盗・暴動・テロなどがある。安全確保のための情報源（外務省海外安全ホームページ・感染症情報センター）や外務省在外公館等とのネットワークを駆使して危機判断の情報収集源とレベルを上げなければならない。

生徒感想：

- ・最近では身近になっている留学も、いざ行ってみると自分が予想していなかったことが起きたり、災害にあってしまったりする場合もあるので、その事態を日本で考え、対処法を決めて理解しておくことが大切であると分かりました。
- ・外国での常識と日本での常識が全く違うということが印象に残りました。日本人を海外の方が見たときの印象が「緊張感がない。危機管理能力がない。無防備・油断しすぎ」といったものに驚きました。私たちが住む日本・松山はすごく安全・安心な場所です。そこで生活していると海外に行ったときに油断していると思われて狙われる可能性が高いのだと思いました。事前の情報収集や海外に着いた瞬間に「海外モード」に切り替えることの大切さがすごく分かりました。
- ・海外でも一人ではないということが分かりました。安全確保のための情報源とネットワークさえ確保しておけば、国の機関ともつながれるし、家族との定期連絡を常にする事で、離れていても安心した留学生活が送れるのではないかと思います。
- ・将来、海外に行きたいと考えていたので大変参考になりました。留学には夢や希望があり、とても楽しみですが、大きな危険や不安もあることを改めて感じました。自分は大丈夫だと考えずに万が一のことを考えて、事前の準備を徹底的にしておくことが必要だと分かりました。
- ・今回海外へ行くときの注意点や心構えなどたくさんを知り、海外に行ってみようという気持ちを高めることができました。
- ・「自分の価値観が100%ではない。相手には相手のコミュニケーションがある。相手の価値観に100%合わせる必要も、自分の価値観を100%合わせてもらう必要もない。寄り添い合うことが大切」というお話がありましたが、とても納得し大切な考えだと思いました。コミュニケーションをとることを目的に行っても、そのこと自体にストレスを感じてしまうこともあるかもしれません。相手との距離感を大切に、価値観を互いに寄り添い合い、楽しむことを大切にしたいです。



## ②「グローバルに考える感染症のはなし」

講師：松山市保健所 中村 清司 医師、宇都宮 彩子 保健師

場所：本校 アリーナ

概要：感染症に対する基本的な知識を講義していただいた後、新型コロナウイルスや、愛媛県でもマダニが媒介し感染例が毎年報告されているSFTSウイルスについて、また、海外で気をつけるべき感染症について、人形劇を用いて分かりやすく教えていただいた。

生徒感想：

- ・改めて「自分の健康は自分で守る」ことの大切さについて学ぶことができた。感染症には三大要因があり、病原体、感染経路、感受性のある宿主の3つである。特に病原体の中には、ウイルスや細菌、原虫やクラジミアなど様々なものがあるが、どれも小さく、ものによってはマスクも簡単に通ってしまうために注意しなければならないと感じた。
- ・今まで知らなかった感染症について驚くことがたくさんありました。一見美しい湖に見えるところでも住血吸虫がいると聞き、安易に水には入れないなどと思いました。また、FORTHというサイトを見て、海外の感染症についても調べてみたいと思いました。私は、将来医療界で働きたいと思っています。コロナ禍を救えるのはやはり医療の力です。私も将来、中村医師のようにになりたい。
- ・今日、新型コロナウイルス感染症への対策として、マスクや手洗い、消毒を徹底していますが、新型コロナウイルスに関わらず、感染症対策には必要だと思いました。また、住血吸虫症やSFTS症という感染症を初めて知りました。自然は素晴らしいもので、リフレッシュには欠かせないものですが、それと同時に十分に予防しなければ危険が伴うということなので、対策をしていきたい。
- ・世界には自分の知らない恐ろしい感染症が数多くあるのだと思いました。将来、発展途上国へ行って何かしたいと思っているので、アフリカなどの感染症のリスクが高い地域に行くときには今日教えていただいた「FORTH」を活用したいです。
- ・SFTSについて最も興味を持ちました。愛媛県での感染者も多く驚きました。今まで森やあぜ道を通るときに、半袖、半ズボンの時が多かったが本当に危険なんだということが分かった。無知であることは時



に人を危険な目にあわせませす。自分でしっかりと感染症について学んでいきたいと思いました。

- ・感染症は世界規模なもので、一方保健所は地域に根ざしたいわゆるローカルな存在だと思っていました。しかし、今回お話を聞いて両者は密接に関わっており、また感染症は地域的な側面もあるということを知りました。また、グローバル化によって特定地域の感染症が別の地域に持ち込まれてしまうこともあるということで、感染症対策にも世界規模で取り組む必要があると思いました。現在、コロナウイルスで感染症への意識が高まっていると思います。これを一つのチャンスと捉えて他の感染症についても興味と知識を育み健康な生活を送っていききたいと思いました。
- ・グローバル化で世界はいくら広がっても自分はたった一人であり、自分の健康は自分で守ることが大切だと分かりました。住血吸虫病やSFTSなど、私が知らない病気はたくさんあることが分かりました。事前の知識がなければ、知らないうちにかかってしまっているという危険があり、知識不足は恐ろしいと感じました。
- ・新型コロナウイルスが収まらない社会、世界で私たちは学んで知識を蓄え、自ら判断し行動していくことが大切だと思いました。自分がかかっているかもしれないという気持ちで、手洗い、マスクの着用を心がけ、一刻も早く世界の人々が元の世界に戻ることができれば良いと思いました。
- ・現在 COVID-19 の前代未聞のパンデミックにより世界は混乱に陥りました。初期は、ロックダウンになり、全員がマスクを着用して気を付けていましたが、最近ではGo to キャンペーンもはじまり、緩和されて危機感がなくなりかけていると思います。ワクチンができるまでは注意し続けたいです。また、間違えても感染者の方を差別することがないように「自分だったら」と考えて行動したいです。今後、このようなパンデミックが起こったとき、今回のことを踏まえて、迅速かつ適正な動きがとれるように、地域協働で一つのマニフェストやそれにあたるものを作ってはどうだろうかと思いました。
- ・感染症の問題はたくさんある。新型コロナウイルス、エイズ、ハンセン病のような差別の対象になっている病気もある。意識をしてかからないように予防ももちろん大事だが、かかった人に偏見の目を向けない、偏見の目を向けることを許さない、差別や偏見を他人に発信しないという、人として守らなければならない倫理的なことは絶対に守りたい。世界に出て行くために、自分の身を守り他人の人権を侵害しないような行動をこのコロナの騒動が終わっても、いつも心がけておきたい。

## 5 講演

### ★未来のふる里産業人養成講座（松山市連携事業）

言葉、文章は君の夢、希望をかなえる力の源泉—コミュニケーション、人間関係の基礎—

（講演者：有限会社沼田事務所 代表取締役 沼田 憲男 氏）

- ①主旨 グローバル化や少子高齢化など社会環境が大きく変化する中、どの世界に出ても活躍できる社会人、産業人を目指して、時代に対応した新たなキーマンとなり得る人材の育成を図る。
- ②内容 「言葉、文章には魔力が潜む」「人に通じない文章の氾濫」「寺子屋、リベラルアーツが日本、欧米の文化、文明を築く」「Globally-minded Talent になろう」「言葉、文章は人格である。自分を大切にしよう」の5つの内容について講義いただきました。文章を書くためには知識と技術が必要であり素養を身に付けること、グローバル化には英語が重要であるが言語の基本は母国語であり、母国語の勉強をおろそかにしないこと、文章を何度も書き消さずに推敲することなどの大切さを教えていただきました。



### ③生徒感想

- ・「人間の考える原点は言葉と文章である」という言葉が最も印象に残った。数学の勉強をするとき、数式だけを理解していても問題は解けない。解法をまず考えそれに従って適切な公式を当てはめていく。そして、その解法が相手に分かるように言葉を使う。つまり、言葉や文章に不慣れだと考えたり、相手に伝えたりすることができない。生きていくには全ての基盤である国語力が欠かせないと理解することができた。
- ・「言葉や文章は人格である」ということも心に残った。普段何気なく使っている言葉は、私の人間性を表していて、相手もそれを受けて私と接している。だから、他人とより良い人間関係を築いたり、信頼されたり、お互いの個性を認め合ったりするために、言葉の一つ一つを大切に過ごし、国語力や人間力を高めていきたい。
- ・「言葉、文章は考える原点である。これが意味するところとしては、人間が思考するためには、言葉、

文章という知恵が必要であり、それに頼って生きていくということだと思います。つまり、言葉や文章が洗礼されていないと思考が繋がらず、進歩しません。逆にこれを鍛えていくことが「素養」を身に付けることであり、言葉や文章が「魔力」を持つことだと思います。

- ・デジタル化が進む現在、言葉や文章は自分の指を使って書くという原点に立ち返られました。毎日の課題で手書きすることを疎かにしたくないと思いました。今日の講演で学んだ「指は外につけた脳である」ということを思い出すようにしたいです。
- ・「母国語ができないと外国語ができない」という言葉が印象に残りました。英語の学習には常に力を入れているが、母国語である日本語の勉強は疎かになっていったと思います。日本語は難しい言語の一つであるとよく聞きます。せっかく日本人に生まれたのだから、その日本語を完璧にしたいと思いました。
- ・言葉は人に気持ちを伝えるためのものではなく、その相手の心を動かすものであり、過去と今、未来をつなぐものでもあると分かりました。
- ・今は、スマホやパソコンで簡単に文章を作ることができるが、紙に書き推敲することが大切であるということが分かりました。文章を見比べながら、さらによい文章に練り上げていくことが、自分の考えを深めることにもつながり、語彙力を高めることがもっとたくさんの表現の仕方を習得できるようになるということで、自分自身の世界が広がっていく気がしました。
- ・「人に信頼され、かわいがられる人が賢い」。その人は、自分の言葉、文章を常日頃から気にしているのだろう。だから賢い。私も常に自分の発する言葉、文章に注意を向けられるような賢い人間になれるように努力していきたい。
- ・言葉や文章を良くするのも悪くするのも自分次第であるということなので、しっかりと考えて言葉を書きたいと思いました。また、文章を書くときには素養が必要だと言うことを知りました。確かに、知識や一般教養がなければ人を納得させる、心を動かす、心に通じる文章は書けないと思いました。学校の勉強だけでなく、それ以外の学びでも素養を身に付けていきたいです。

### III 留学

	内 容	対象者人数
1	本校の留学促進に向けた取組	全校生徒
2	留学生の受け入れ	2人

#### 1 本校の留学促進に向けた取組

##### (1) 「トビタテ!留学JAPAN 日本代表プログラム 高校生コース」への参加説明会

主に短期の留学希望者を対象に「トビタテ!留学JAPAN 日本代表プログラム 高校生コース」参加に向けての説明会を実施した。(12月、3月)当コースは自分が希望する留学プログラムを申請して審査を受け、採用されると奨学金を出してもらえるという、ユニークなものである。既定の留学プログラムが用意されていてそれに申し込む一般的なものと異なるため、その周知と採用に向けてのポイントについて説明した。説明会には多くの生徒が集まったが、後に本年度第6期の採用は中止となった。2年生は昨年度1月末に締め切りであったため、10名が書類を提出していた。1年生は4月末に締め切りで、11名が書類を作成したが、提出直前に採用中止が決まり、提出に至らなかった。

##### (2) 春休み語学研修プログラム (アデレード語学研修代替事業)

###### ① 事業主旨

グローバル化が加速する21世紀に求められる、豊かな語学力・コミュニケーション能力・異文化体験をもつ「グローバル人材」を育成するため、夏休みの海外語学研修を7年前から行っている。主に初めて海外に行く生徒を対象に募集をかけ、海外を経験することにより、帰国後もますます語学学習に熱心に取り組んだり、さらには海外への留学や進学を目指したりする生徒を育てる。

本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大のため、夏季の実施を延期し、3月に渡豪できるよう準備していたが、それもかなわず中止となった。現地での研修に変わるものとして、研修予定であったフリンダース大学 (IELI (Intensive English Language Institute)) とオンラインプログラムを作成し、実施した。

###### ② 事業概要

フリンダース大学 (Flinders University) IELI (Intensive English Language Institute) スペシャルプログラム

- ・2時間の授業と1時間の予復習の時間の5日間のコース

・語学力の強化とオーストラリアの文化体験（ホームステイ生活体験やアデレードの観光体験など）

### ③ 代替プログラムの実施内容

期 間：2021年3月22日（月）～3月26日（金）

研修元：Flinders University の I E L I

生徒数：34人（本校20人、宇和島南中等教育学校より14人、計34人）

内 容：

3月22日（月）	語学研修	Life Skills (Homestay)
3月23日（火）	語学研修	Australian Culture
3月24日（水）	語学研修	Friends and Community
3月25日（木）	語学研修	Out and about in Adelaide
3月26日（金）	語学研修	Studying in Australia

## 2 留学生の受け入れ

### (1) Hinako LYDEN（ヒナコ ライデン）

国籍：アイルランド

本校での履修期間：2020/6/4～2020/8/7

履修内容：2年3組に在籍。期間中は同組の生徒と同様に授業に参加

部活動：バレーボール部

担当教員の評価

昨年度本校に留学しており、新型コロナウイルス感染症の影響でアイルランドへの帰国が延期となったため、再度本校で学ぶことになった。そのため、昨年度からの友人が多く、彼女の登校初日から歓迎ムードであった。そして、すぐにクラスへ溶け込むことができ、様々な場面において積極的な姿勢で学んだ。彼女の影響で、アイルランドの生活や文化に対する興味・関心が深まり、国際理解の一助となった。また、昨年度所属していたバレーボール部に再び所属し、部の仲間とともに熱心に活動した。

私自身は担任として初めて留学生を迎えたが、安心して受け入れることができた。礼儀正しく、日本語が上達しており、ほぼ全てを日本語で対応した。母が松山市出身で、母の実家で一緒に生活をしており、日常生活でも安心して見守ることができた。帰国のスケジュールが未確定な状況が続いたが、常に前向きで、にこやかな表情で毎日の学校生活を過ごした。8月に帰国が実現した後も、本校生徒とSNSで繋がっており交流が続いている模様である。

未だに海外への移動が制限される状況が続くが、彼女の存在が本校生徒にとって、いつか海外へ行ってみよう、留学してみようという契機になったと思う。

本人の感想：

私はアイルランドと日本のハーフで日本語をもっと勉強したくて、去年の7月から東高校で留学をスタートしました。1年生の時は1年4組でした。4組はいつも元気で男女が仲良く、みんなのノリも良くて本当に楽しかったです。また、1年生の時にバレーボール部に入りました。バレー部のみんなは優しくて面白くて楽しそうだったから入ることにしました。バレーをしたことがなかったので最初は全然できなかったけれどマネージャーや先生、みんなのおかげでなんとかできるようになりました。みんな新しい言葉などいろいろ教えてくれました。3月に帰国する予定で全校生徒の前でお別れスピーチをしたのですが、コロナの影響で帰れなくなったので、また東高に頼んでもう一回東高に戻ることができました。そして、2年3組に入りました。また戻るのはすごく恥ずかしかったけど、みんな温かく迎えてくれて嬉しかったです。3組の担任の西丸先生はとても面白くていつも笑いが絶えないクラスでした。2年生では、1年生の時には話したことがない人とも仲良くなれて良かったです。6月に学校に戻れたのでまたバレー部に入りました。3年生の先輩達がいなくなったのは寂しいですが1年生の後輩達といっぱい話せて仲良くなれて本当に良かったです。

東高では運動会・グループマッチ、ポートルースなどたくさんの学校行事があり驚きました。アイルランドでは学校行事があまりないので東高の学校行事に参加できていい経験になったと思います。暑い日々には運動会の準備をするのは大変だったけど、運動会の日には最高で頑張って準備した甲斐がありました。東高生のリーダーシップが素晴らしくて感動しました。東高のみんなは勉強だけでなく部活や学校行事にもすごく力を入れていて私は愛媛県で一番いい学校だと思います。東高の生徒と先生達を尊敬しています。私は、東高



に留学している間、大きな仲良し家族と過ごしているようでした。毎日学校に行くのを楽しみにしていました。東高の勉強は難しいのですが、学校が楽しすぎて正直、アイルランドには帰りたくないです。ずっと日本にいて東高に行きたいです。この1年間は人生で一番楽しかった1年でした。この1年間があつという間に過ぎ、もうすぐアイルランドに帰るのは信じられません。東高にお別れをしてみんなに毎日会えなくなるのはすごく悲しいけどまたいつかみんなに会えると信じています。先生に本当にお世話になりました。いっぱいしてくれて感謝しています。すごく良い学校で行けて忘れられない思い出がたくさんできて本当に良かったです。本当に本当にありがとうございました。素敵な日本での高校生活でした。東高生のみなさん大好きです。先生も大好きです。バレー部も大好きです。控えめに言っても愛しています。私を留学生として1年間も受け入れてくれて本当にありがとうございました。

(2) Kanyapak Ratthaloengsak(カンヤーパック ラッタールーンサック)

国籍：タイ

本校での履修期間：2020/11/17～2021/3/10

履修内容：1年9組に在籍。期間中は同組の生徒と同様に授業に参加

部活動：弓道・野球部（マネージャー）

担当教員の評価

来日当初から積極的にコミュニケーションを図り、クラスに溶け込もうとする姿勢が見られた。また、礼儀正しく自分を律して学校生活を送ることができており他の模範となった。授業においては、その内容を少しでも自分のものとするため懸命に取り組む様子が見られた。3月の学年集会で日本語を用いて母国タイについて発表を行った。本校生徒の国際的視野を大きく広げてくれると同時に流暢な日本語に驚かされた。部活動では、弓道部や野球部のマネージャーとして積極的に活動した。

新型コロナウイルスの影響で4ヶ月という短い期間であったが、本人にとってまた本校生徒にとって大変有意義な時間であった。この経験を糧に、帰国後も将来の夢に向かって飛躍してくれることを祈っている。

本人の感想：

私の名前はカンヤーパック・ラッタールーンサックです。ナムと呼んでください。タイから来ました。日本で留学生として過ごせたことは私にとっていい機会でした。学校では一週間に二回、弓道部で活動しました。他にも色々な部活動を体験しました。そのおかげで、クラスメート以外にもたくさんの友だちができました。そして、部活動からは多くの日本文化を学びました。また、私は野球が大好きです。しかし、野球をやったことはありません。だからホストファミリーは私と一緒にキャッチボールをしてくれました。バッティングセンターにも行きました。



野球部のマネージャーも体験しました。野球部をサポートするために働くことはとても幸せでした。学校の皆さんはとても優しい人たちです。私は感激しました。私は日本料理をたくさん食べました。好きなものはうどんです。お父さんと一緒にうどんを作りました。タイ料理も作りました。お父さんとお母さんはグリーンカレーが大好きです。愛媛県内をたくさん旅行しました。道後温泉にも行きました。楽しかったです。

こうした機会をもらえたことはとてもうれしいことです。日本での経験を将来に生かしていきます。日本での大切な思い出は一生忘れません。ありがとうございました。

IV 成果の普及

生徒のGL事業を通じた成長を発揮する場所として、以下三つの発表会とその他の普及活動を実施した。

	内容	発表学年	開催日（開催頃）
1	1・2年生合同中間報告会	1・2年生	12/17
2	えひめスーパーハイスクールコンソーシアム in 中予	1・2年生	1/26
3	令和2年度研究成果発表会	1・2年生	3/4

1 1・2年生合同中間報告会

主旨：2年生が今まで行ってきた課題研究の発表を実施することで、それまで取り組んできた課題研究の成果（問題解決力・思考力・分析力の向上）を示し、これまで重ねてきた発表を生かして高度なコミュニケーション能力・表現力・ディスカッション力に、さらに磨きをかける。また、発表の仕方やポスターのまとめ方を1年生に示し3月の研究成果発表会に向けての指針を示す。

日時：令和2年12月17日（木） 14:40～16:30

場所：松山東高等学校 体育館、アリーナ

参加者：2年生GLコース（80名）、1年生、教職員、来賓（愛媛大学関係者、松山大学関係者、課題研究講師、本校生徒保護者）

内容：14:40～14:45 開会挨拶

14:45～15:00 中間報告①「20.5%」

発表者：濱田 和花、河端 愛海（長友 太郎先生講座）

15:00～15:15 中間報告②「Language and the Way You Think」

発表者：池内 優葉（Jonathan Jackson 先生講座）

15:15～16:05 ポスターセッション

16:05～16:20 昨年度中国フィールドワーク参加報告

発表者：玉井 志歩、坪内 琴乃、谷本 遼汰、野上 朔佳

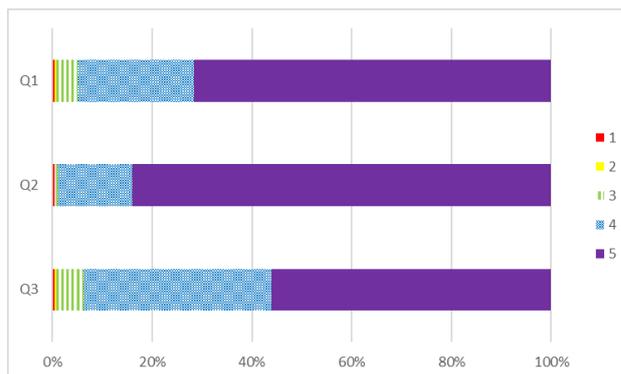
16:20～16:25 閉会挨拶

生徒評点：（対象は1年生のみ）

Q1. 今日の会により、3月に向けて自分のすべきことが理解できたか。

Q2. 2年生の発表、ポスターセッションは役に立ったか。

Q3. 現在実施している課題研究の見通しを立てることができたか。



生徒感想：

<1年生>

- ・今まで二次元的にとらえていたアニメ・ゲームの世界のものが、技術の発展によって三次元的・温度、触感に触れられるようになるのは、すごく面白く、実現したら体験してみたいと思った。VRでポケモンバトルが再現できたら、どんなにわくわくするだろうかと感じた。
- ・スウェーデンの家具ブランドIKEAがなぜ人気なのか、日本人とスウェーデン人の性格的な共通性という新しい切り口を知ることができて、興味深いと思った。マークのついた食品を気にして買う意識が全然違うことが分かった。
- ・日常食、非常食という考え方は新しく、興味深いと思った。また、乾パンやレトルトカレー、サバ缶など、非常食としてとらえてきたもののおいしそうなおアレンジレシピも今度作ってみたいと思った。ローリングストックを学ぶことができてよかった。
- ・話し方がとても上手だった。久万高原の知らない実態をたくさん知ることができてとてもよかった。簡潔にまとめられていて、わかりやすかった。久万高原の実態を実際にこの目で見てみたいと思った。
- ・あまり考えたことがない分野なので面白かった。
- ・VRは現実世界と融合、ARは仮想に拡張、VRで世界を旅する。MRやARの意味をあまり知らなかったのので、しっかりと知ることができてよかった。誰もが知るディズニーを例示し、VRがどのように使われているのか、またその効果について知ることができ、社会的効果があることが分かった。
- ・日本だけでなく、世界にもまだまだ差別が残っている。差別をなくしていくためには、一人一人が正しい知識を身に付けることが大切だと思った。
- ・MRの利用により、避難訓練をリアルで緊張感のあるものにできるというのはとても興味深かった。
- ・グラフや結果、考察など実験結果をわかりやすくまとめていた。すごく興味深く、聞いていて楽しかった。北欧の人と日本人の気性が似ていることなど、共通点を初めて知ることができてよかった。
- ・動画が英語だけど、日本人でもわかる動画があった。愛媛県のPR動画が面白かった。英語の字幕がより簡単なものを使うように考慮されていて、すごいと思った。
- ・最近の話題のアニメと関連させて説明しているのでわかりやすかった。
- ・資料と分析が分かりやすかった。



## <2年生GLコース生>

- ・昨年ポスターセッションをする機会、見る機会がなかったためどんなものか分からず、不安でしたが、協力してポスターを作り、発表を行うことができました。1年生の感想で、分かりにくかったという声があったらどうしようと不安に思っていました。逆に分かりやすかったという声をいただいて、安心しました。
- ・今回の中間発表で、たくさんの1年生にシークワサーの魅力について知ってもらえたことにとっても満足しています。効果の多さや、本来捨てられるはずの未利用資源を活用する利点を端的に説明するのは難しかったですが、私たちが今まで行ってき新しい食品の開発と販売について中心的に説明することで、分かりやすく興味を持ちやすい発表になったと思います。
- ・発表を通してみんなの反応を見たことで、自分の研究が有意義でユニークだと認めてもらい、自分がここまで頑張ってきた成長過程に誇りを持ち、成果をアウトプットするいい機会になりました。さらに研究を重ねて自分の経験値を積み重ねていきたいです。そして自分の住んでいる町に興味を持ち続けてこの町を変えていくのだという意思を抱き若者が、社会を変えていく世の中にしていきたいです。
- ・人に話をする事の難しさです。自分が発表する際、なかなか思うことが伝わらず、もどかしく思いました。回数を重ね、ポスターを示しながら簡潔に言うのが伝わりやすい方法だと分かったので、次回に生かしたいです。今回は、とても充実した報告会でした。
- ・ポスターセッションをしてみると、聞く人によって興味を持ってくれる箇所が異なるので、お客さんの反応を見ながらどこを詳しく説明すべきなのか考えながら発表する必要があると感じました。質問や意見をその場で伝えてくださった人もいて、よりこれからの研究をどのように進めていくかが明確になったので、これからの研究も意欲的に進めていきたいと思います。
- ・ポスターを作るにあたって、自分の研究でどのようなことを調べていけばよいのか考える時間をたくさん取り、いい研究を進められたと思います。データをもとにして考える部分が多く、自分の思い通りにならないことや、行き詰ることが多く大変でしたが、飢餓に対する世界の状況を知り、これからの研究の道筋を立てることが出来ました。自分の課題研究としてはまだまだ内容が浅く、飢餓の問題を解決するための具体的な策や自分たちにできることなど、考えなければいけないことが数多くあるので、これからもっと頑張って調べていきたいと思います。
- ・今回の中間発表に向けて準備をする中で、多くの発見があり、自分が今後どのようなことを調べていきたかが明確になった。ここで得たものを生かせるようにしたい。
- ・今までは教わるばかりだった医療の知識を、自分が少しですが誰かに伝えることが出来ているんだと思うととても嬉しかったし、真剣に聞いてくれた1年生の姿から刺激をもらい、今後一層頑張って知識を深めたり、問題の解決法を考えたりしていきたいと思いました。自分の興味のある分野をたくさん研究できるG明教の時間はとても楽しいので、大切に過ごしたいと思いました。
- ・はじめの二人のプレゼンはもちろん、周りに貼られていたポスターも興味深いものが多かったので、他の人たちのポスターセッションも時間があつたら聞きたかったなと思った。



## 参加者感想：

- ・ポスターにまとめられている以上にいろいろと学ばれていると感じました。
- ・GLの授業に対する意気込み、熱心さが伝わりとても感心しました。1年生もこれに続いて欲しいです。
- ・テーマに基づいて研究されており、まとめたポスターと説明でよく分かり参考になりました。
- ・大変有意義な発表会でした。面白かったです。
- ・発表がとても聞き取りやすかったし、パワーポイントの見せ方も上手でした。
- ・児童虐待の実態と里親制度について「知ること」の大切さを改めて感じる事ができました。
- ・一人ひとりが自分の課題を上手にまとめてプレゼンできていたと思います。ポスターの見せ方にそれぞれの個性が出ていたので、他の人の作品を見てどうしたら効果的に伝えられるかを学ぶことができたのではないかと思います。
- ・高校生ならではの柔軟な視点と研究心に溢れた発表がたくさんありとても興味深かったです。
- ・感染対策がしっかりとなされていた。
- ・2年生は1年生の時に発表の経験ができず心配していましたが、さすが東高生で堂々としていました。
- ・2年生同士がお互いのポスターを見る機会・時間がないので、もったいない気がしました。